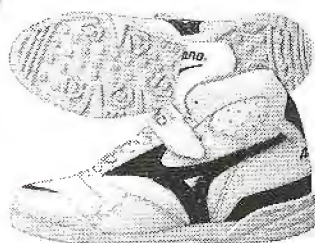
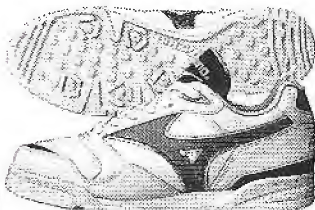
軽さが進化した
ニューラインアップ。





通気性と防水性が合体した
ニューエアリー採用。

ウィングゾーン OD-L ¥11,000
16KH-40109 サイズ：23.0〜29.0
ホワイト/パープルにブラック/ゴールド 他1色
●甲：人工皮革 ●底：ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE



アウトドア専用のグリップ性能。

ウィングゾーン OD-S ¥7,900
16KH-41162 サイズ：23.0〜29.0
ホワイト/ネイビーにレッド/シルバー 他1色
●甲：人工皮革 ●底：ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE

攻守に、弾む。ハンドボール協会公認の検定球、準検定球。



16OH-202
¥4,700
検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2



16OH-203
¥4,800
検定球
亀甲型
天然皮革3号
HL-3



16OH-212
¥4,400
準検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2A

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR



●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は——「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」 TEL：東京(03)3233-7110 大阪(06)614-8110

藤田八郎氏、喜びの受章



このたびの叙勲で㈶日本ハンドボール協会元常務理事の藤田八郎氏の長年に亘るハンドボール競技の普及、発展に尽くされた功績に対し、勲五等双光旭日章が授与されることとなった。

同氏は昭和22年、熊本県ハンドボール協会設立に参画し、昭和26年、日本ハンドボール協会常務理事に選任されて以来、日本ハンドボール協会の組織の整備、拡充及び普及に多大な功績を残された。また、長年に亘る審判審査委員、審判審査委員長として審判の育成、技術向上にも貢献されたことが、オリンピックレフェリーを育てた。さらに、熊本での世界選手権開催として結実している。

今回の栄誉に対し心からお祝いを申し上げると共に、益々のご活躍を願う次第であります。

日本協会だより

10月度常務理事会

日　時　10月7日
会　場　代々木第二体育館会議室
出席者　渡辺副会長・中沢専務理事・常務理事9名

《報告事項》

一　第50回国体組み合わせ決定
9月21日、文部省、体協立ち会いで抽選会実施。

二　第51回国体ブロック別出場枠について
来年度より成年男子二部廃止。それに伴う種別、ブロック別代表チーム枠数は次の通り。
成年男子16、成年女子24、少年男子24、少年女子16。成年男女、少年男女は隔年のローテーションになる。

三　全日本総合選手権大会に関する件
大会分散（東京・神戸）開催により収入が減収予想のため日本協会としても協力していく。

四　日本リーグ報告（運営委員会より）
10月27日日本リーグ開幕。男子全日本チームの活動優先。TV放映の件。宿舎の指定制。

五　企画・広報委員会
世界選手権大会のマスコミ受け入れについて動き出した。

六　指導委員会
ルンド氏招聘にてコーチ・レフェリー・シンポジウム計画（3月）。熊本でも実施の方向。

七　AHF・COC会議報告
アジア選手権のレフェリーは中立を求めたが沿わなかった。

《議題》

一　97世界選手権大会関連について

競技実行委員会（9月27日）報告

補助金事業の申請。募金活動については日本リーグ以外の企業からも集める。殿水財務担当理事がまとめ役とする。マスコミのクウェート・世界選手権大会への派遣。公式ポスター制作。国内代理店ジャック坂崎氏との打ち合わせ報告。
プレ大会（4月9日～14日）、オーナー会議11月22日、熊本大会の動員計画について今後も検討。

二　選手強化について
男子全日本の今後の対応について、10月17日の強化委員会前に野田強化担当理事に常務理事会の意向を伝える。
第12回女子世界選手権大会の選手、スタッフ了承。
チーム97熊本が出場したインターコンチネンタルカップ、女子ジュニア世界選手権大会の結果報告。

三　社会人並にクラブ関連大会の名称、次回まで。

四　登録処理の課題について
都道府県協会に対して登録事務手続き方法等を徹底する場を設けたい。
登録締切日（5月31日）を検討する。種別「高校」に選手証の交付をする方向で検討する。

五　事業部門別予算進捗状況の報告

六　実連平成8年開催の国際大会の日本協会後援について了承。

七　JURY制度の確立について
本年度の全日本総合選手権大会で実施。

八　指導・普及委員会作成の一般向けのビデオ作成。詳細次号。

CONTENTS

表紙及び国体写真：福島県石川・本宮町国体室提供

AHFのCOC（競技・組織委員会）会議に参加して

AHF・COC委員　井　薫

第8回アジア男子選手権大会（兼アトランタ・オリンピック予選）が9月25日より10月6日まで、中東湾岸のクウェートで開催されましたが、同時にAHFのCOC（競技・組織）委員会の会議が行われましたので出席しました。

主な議題は96－97年のアジア地区の大会スケジュールでしたが、会議参加にあたり今後日本協会として、アジアにおける取り組みをどうとらえるかについては、方向性の指示を受けていましたので、男女ジュニアの世界への予選等について、近い将来、日本も開催検討の意向ありを示しました。


井　薫氏

議題の他では、本来PRC（競技・規則）委員会のメインテーマである、本大会のレフェリーについての討議を提案しました。

それは当初、AHFでは参加国の帯同レフェリーで大会運営の予定でしたが、オリンピック予選という極めて重要な大会なので、IHFからの派遣レフェリーが必要である事を、4月の段階でAHFの理事として渡辺副会長、ついで韓国の会長、さらにPRC委員長の韓国の朴氏が相次いで提議しましたが、AHFからの明確な回答なく、8月中旬に渡辺副会長から、昨年の世界選手権のアジア第二次予選、日本対サウジアラビア戦の開催場所に関わった私に、最終提案を行うよう指示がありました。

そこで8月21日、AHFに同様の要請を行いますと、8月25日、いつにない早い形でIHFからの派遣レフェリー決定のFAX（協会受付No.７３０）を受け取りました。

ところがクウェートに入りますと、確かにスロバキアとハンガリーからの2ペアが来ていましたが、これがIHF派遣ではなく、単なるIHFの国際レフェリー、つまりAHFの一本釣りのレフェリーだった訳です。

私はAHFからのFAXを持参して、回答との違い、オリンピック予選の重要性からくる、大会運営及び審判の公平性を述べるのですが、IHF所属であれば良いとのAHFの姿勢は頑迷そのもの。副会長も兼ねるUAE（アラブ首長国連邦）のファルダン委員長に大会の混乱を危惧しての重ねての提案も、委員会の構成が中東3に対し極東1ではどうしようもない流れ、まして本来PRCの専門テーマであれば、次回からは正してほしい、かつ本大会の公平な運営を期待する、との主張が精一杯でした。

さて、大会は案じた通りの大混乱だったそうで、5月アイスランドの世界選手権で大活躍の韓国もクウェートに、オリンピックの出場権を奪われる事態は如何にも異様。皮肉というより滑稽なのはクウェート対UAE。UAEの選手がレフェリーに暴行の後、両チーム入り乱れての乱闘をファルダン委員長はどんな思いで観戦したのやら。



極東の各国が一緒になって、この中東の横暴に危機感をもって速やかに対応しなければ、アジアにおけるハンドボールは間違いなく衰退の路を進むことになる、そんな寂しい思いにかられる大会の顛末と会議の模様を報告とします。

第8回男子アジア選手権大会報告

無念の涙……

日本選手団団長（強化担当常務理事）　野田　清

●はじめに

蒲生全日本チームの3年10ケ月に亘る強化の発表の場に、団長として参加できることは、ハンドボールマンとして大変に光栄に思っておりますし、同時に大きな期待も持っておりました。

また、アトランタ・オリンピックの出場権を獲得し、来る97年の世界男子ハンドボール選手権熊本大会への「弾み」をつけて、ハンドボールのメジャー化への大きな「うねり」を引き出したいと考えておりました。

●試合の総評

各試合の詳細報告は、蒲生監督の報告を参考にしていただくこととして、団長として感ずるところを述べたいと思います。

予選リーグ第1戦の中国戦は、1時間を通じての大熱戦を制し、勝利をものにした。8月のヨーロッパ遠征での、国際試合経験による接戦での「勝ちパターン」をつくることができた「証し」として、選手の闘争心・勝利への執着心などを強く感じた。


野田　清氏

第2戦の中華台北戦は、問題なく一蹴して、その実力差を見せつけた。そして、予選リーグCグループの第1位になり、1～3位決定予備戦でBグループ第2位のバーレーンとの対戦となった。クウェート入り直前にバーレーンで2戦2敗をしていたが、これは、チームの最終仕上げのため、戦術・戦法チェックであって、スタッフ・選手とも特に支障を来すこともなく、本番での一戦で「実力で勝負」と考えていた。

その一戦は、スタートから日本は好調で4－1と立ち上がりからリード。その後日本は2名の退場とチャージング・オーバーステップ等のレフェリングにより、リードを保てず、前半9－13と逆にリードされた。後半10分には、1点差に追い付いた日本がペースを掴んだゲームであったが、レフェリーの厳しい判定は最後まで続き、リズムをつかめずに「無念の涙」を流す結果となった。

この結果により、日本は4～6位決定戦に回った。オリンピック出場権獲得が出来なかった選手たちの落ち込みは予想以上であったが、見事に精神的に立ち直り、ナショナル選手としての自覚と誇りを持って、中国・UAE戦を好内容のゲームで勝ち、第4位となった。

●大会の感想

一　大会運営

大会の運営については、大会期間中のスケジュールの変更やわずか5試合のために14日間という長丁場など非効率的であったが、テレビ中継については、ゴールデンタイムに実施され評価できる。

トレーニングについては、1日1時間という極めて少なく、アウトコートでは暑すぎるなど苦慮させられた。また、入国ビザ、スケジュール変更等のトラブルもあり、十分な大会運営ではなかった。

二　大会会場・雰囲気等

観客席とコートの仕切りとして、鋭いやり形のスチール製フェンスで囲まれていたが、選手・レフェリーの安全面については、事実として不安があった。実際に10月1日のクウェート対UA

E戦では、レフェリーの判定に対して、憤慨したUAEキャプテンがレフェリーを殴り付け、両チームと大会関係者が乱闘になってしまったほどである。また、こういったケースで、各国のVIPの警護やトラブルの際の安全面では、身の危険を感ずるほどであり、治安面の不安を感じた。

三 レフェリーの関係

今大会は、1996年アトランタ・オリンピックアジア予選を兼ねた大会にもかかわらず、以下の点について、アンフェアーなことが指摘できる。

①基本的には、AHFの主催の大会であるIOC・IHFと言う上部組織に添った大会の運営がなされるべきであり、その立会いがないのは前代未聞。

②同時に、ノーマルなケースとして、IHFのPRCからの中立なレフェリーの派遣が成されるべきところであるけれども、IHFを通していないレフェリーが招聘された。

右記の様なことが指摘できるが、実際に1~3位決定予備戦以上のレフェリングには、アンフェアーなものがあっても、特にUAE選手のレフェリー暴行事件、韓国対クウェート戦の韓国の試合放棄も許されないアピールであった。

●まとめ

以上、団長としての報告を述べたが、次のことは対応を急がねばならない。

一 オリンピック・世界選手権のアジア予選などが、適切な運営の基に実施されるように、日本協会としてAHFの体制整備について真剣に取り組むべきである。

二 今回のアンフェアーなレフェリーの問題もあるけれども、日本のレフェリングとは大きな違いがあり、早急に対応が必要である。

三 97年世界選手権大会熊本大会の強化については、日本協会で十分に検討をして、万全の体制とその環境を築いて行くことが急務である。

今回の蒲生全日本チームのスタッフ・選手には、3年10ヶ月の長い期間にわたる努力に対して、その労をねぎらい敬意を表する次第である。オリンピック出場権獲得はできなかったわけだが、この経験は何事にも代えられぬものであり、今後の人生に必ず役に立つものである。97年世界選手権熊本大会を17ヶ月後に控えて、日本ハンドボール界が一丸となって、地元日本での世界選手権で好成績が残せるように、皆様方の更なるご支援、ご協力をお願いして報告とします。

五輪への最後のチャンスの経緯

全日本男子監督　蒲生　晴明

●はじめに

1991年11月、新監督に就任以来3年10ヶ月が経過した。この間には、多くの方々のご支援、ご協力をいただき今日のチームにまで築き上げてきた。就任当初、掲げた目標とし「アジアのチャンピオンになる！ アトランタ・オリンピック出場」であった。そのチャンスとしては、2度のアジア選手権とアジア大会、この3回であったわけだが、今回その最後のチャンスがクウェートであり、そしてアトランタ・オリンピック出場権をかけたチームとして仕上げの大会でもあった。



蒲生　晴明氏

本年は、この大会を最終目的として、次のような強化計画の基に活動した。

一 5月には、第14回世界選手権大会出場とそれに伴うヨーロッパ遠征。

二 6月には、医科学委員会のご協力による自衛隊でのメンタルトレーニング。

三 7月は、広島・熊本での国際ゲーム。

四 8月は、オレ・オルソン氏（デンマーク）アドバイザーコーチの招聘とスウェーテーン遠征。

このように、オリンピック予選を前にして、色濃く強化ができましたことは、日本リーグ各チームの多大なるご理解とご協力のお蔭であると感謝するところであります。

しかしながら、アジア予選の結果については、大変に不本意なものになり、各方面の方々には大変に申し訳なく、お詫び申し上げます。その結果について、以下に述べます。

●予選までの状況及び予選戦評など

一 現地でのトレーニング、コンディショニング

①トレーニング

今回の遠征合宿の目的は、オリンピック出場権獲得。午前中はビデオを見てからトレーニングに出掛け、内容的にはハードなものではないが、チーム造りの基盤としてアジアを勝ち抜くための戦術・戦法について、チームとして固めるべく、個人個

人のプレー技術の向上も含め実施していったが、重点的にはコンビネーションプレーに時間を費やした。

具体的なチームの目標としては、確率の高いオフェンス・ポジションでのシュート・そのシュート成功率のアップであった。5月の世界選手権の結果（日本43・0％、世界選手権出場上位チーム50・0％以上）から、シュート成功率をいかに上げるかを時間をかけて追及してきた。結論的には、確率の高いポジションでのシュートチャンスを狙っていくことと、個人のシュート力の養成になり、この部分のトレーニングには、かなりの時間をかけた。

②コンディショニング

時差対策としては大会の10日前から隣国のバーレーンに乗り込み、現地到着当初は、体調は良くなかったが、徐々に調子を持ち直してきた。

今回も、遠征での専任トレーナーの帯同により、選手たちの身体的コンディショニング造りについては、専任トレーナーが「待ちの姿勢」～「攻めの姿勢」で臨んでいたことによる成果は、評価できる。

食事についても、まったく問題なく、体調を崩すものもいなかった。また、現地では、日本人会の方々の暖かいご援助による日本食の差し入れなどをいただき、選手団一同感激と更なる意欲を抱いて、クウェート入りしたところであった。

二　アジア選手権＆オリンピック予選戦評

▼予選リーグ第1戦

対中国

ゲームが始まり、非常に緊張した立ち上がりであった。中国チームは長身者を揃えてディフェンスを固め、速攻を使ってきた。そして日本のミスから2点を取りペースに乗るところを確実なセットOFから4連続得点した日本が、主導権を取り波に乗ったが、前半は、11－11の同点。

後半は、日本の堅いディフェンスを中国が攻めあぐみ、遅攻の戦いとなったが、日本は接戦の末、ボールのキープ力で粘り抜き20－18で緒戦の強敵中国を破った。

▼予選リーグ第2戦

対中華台北

実力的には一枚上だが、中華台北もこの大会の前に韓国で強化合宿を実施しており、油断が出来ない相手である。個人のテクニックとしては、素晴らしいものがあるものの、チームとしてのコンビネーションや戦術面での策があまりなかった。

前半14－11から、後半は途中6連続得点など28－18の日本のワンサイドゲームとなったが、中華台北は着実に力をつけてきている。

▼1～3位決定予備戦

対バーレーン

日本は立ち上がりから動きがよく4－1と一気にリード。しかしこの後退場者が重なり、バーレーンに連続得点をされてしまった。

前半は9－13と4点のハンデを背負ったが、後半はクロスゲームになり、残り10分から日本のオフェンスミスからの速攻でバーレーンに得点を奪われ、その差は縮められずに21－23で敗退。クウェートの観衆は、異常なまでの応援をバーレーンにするほどであり、このプレッシャーの中で平常心を保ちながらのゲームメイクは、多くの経験をしてきた我々でも容易ではなかった。

この結果、日本は4－6位決定戦に回ったことで、アトランタ・オリンピック出場権は獲得出来なかった。

▼4～6位決定第1戦

対中国

予選リーグでも対戦している中国であったが、1～3位決定予備戦では韓国と第一延長戦までもつれるゲームを行っており、力としては相当のものがあった。

しかし日本は、前半互角の勝負から後半中盤にディフェンスを中央に固め、速攻も交えて7連続得点して主導権を握り、19－15で中国を破った。

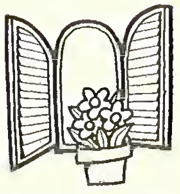
▼4～6位決定第2戦

対UAE

UAEも今大会は非常に好調で、1～3位決定予備戦では地元クウェートを相手に残り3分、同点まで追い付き、勝ち越すような勢いのあるチームであった。日本はUAEに対して、ディフェンスを固め、守ってからの速攻で余裕の展開。前半17－9、後半15－9と一方的なゲームで最終戦をものにし、第4位で終了した。

●おわりに

ゲームの結果については第4位という大変不本意な成績に終わり、関係の方々並びにハンドボールファンの皆様に対して、期待に応えられなく大変申し訳なく思っております。しかし、選手たちはチームの目標（50％以上）であるシュート成功率60・5％を記録してくれましたし、戦術的なサインミスもないほどトレーニングで培ったことをコートで全力投球してくれました。



監督としてこのチームを3年10ケ月指導してきた結論として、私の力不足であったと考えております。

オリンピック出場を最大の目標に掲げて人生の一時期をこれに賭けてきたスタッフ・選手たちとご家族・職場の方々のご支援、並びに各チーム、また合宿でお世話になった方々のバックアップに対して、心からお礼を申し上げまして、監督としての最後の報告とさせていただきます。長い間、ご支援・ご協力頂きまして本当にありがとうございました。

97世界選手権大会
熊本だより

公式ポスター（第1号）決定！

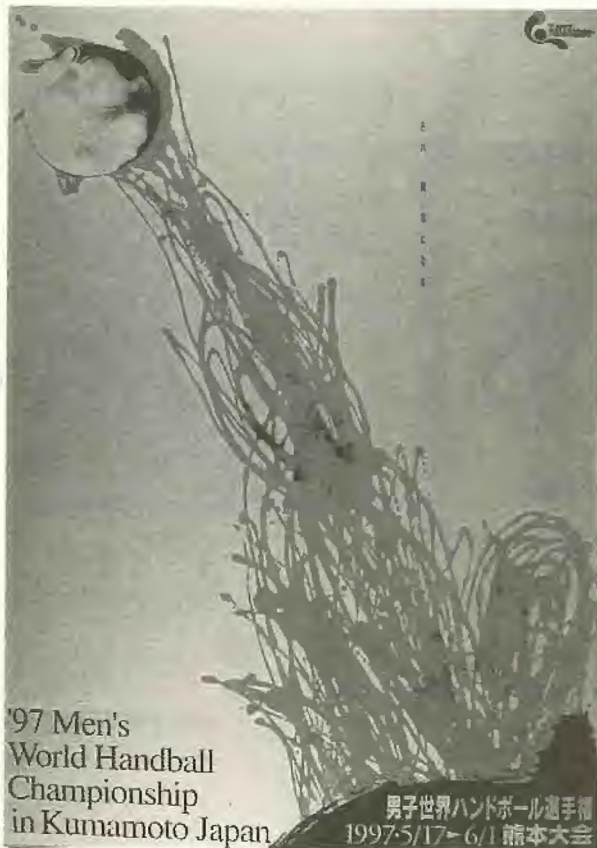
この度、世界選手権大会第1号公式ポスターを募集し、全国から25点の作品が寄せられた。

10月31日、その審査会が行われ、次のポスターが第1号の公式ポスターとして選ばれた。

このポスターは公式ポスターとして国内外を問わず、大会を通じて広く掲示される。

このポスターの基本構成は97年世界選手権大会のキャッチフレーズ「ボールはひとつの地球になって」または「その一瞬鳥になる」の具象化したものである。そして世界選手権大会のイメージをデザイン、士気高揚を図り、効果的役割を果たすもの。独創性があるもの、国内外において広く親しめるものを制作基準とした。

審査委員長に東政美氏（熊本大学名誉教授）、橋元俊樹氏（熊本日日新聞広告局長）、友枝雄策氏（デザイナー）、丸野香代子氏（有談代表）、與縄義昭氏（県ハンドボール協会会長）、日本協会より木野実常務理事が審査員にあたった。



国際エージェント「CWL」が来熊

97年の男子世界選手権大会において、国際ハンドボール連盟（IHF）から大会の権利を取得している国際エージェント（CWL）本社スイス・クルーツリンゲンから2名の代表者が来日。熊本で日本協会・渡辺副会長、中澤専務理事、竹野、井常務理事、西東京事務局長、古田熊本事務局長、與縄県協会会長らと、大変重要な問題であるテレビ放映、広告等についてかなり突っ込んだ話し合いを行った。CWLは大会会場となる県立体育、市体育館、現在建設中のドームも見学し準備が進んでいることにほぼ満足していた。


（左から）竹野常務理事・井常務理事・ジャック坂崎氏・ホルストリヒトナー氏


（左から）古田事務局長・與縄県協会会長・渡辺副会長・中澤専務理事

しかしテレビ、広告の権利等についてまだこれから詰めなければならないことも山積していて、CWLはIHFとも連携して年内にも再来日して打ち合わせの予定である。

なお、国内代理店にはCWLはJSM（ジャック坂崎マーケッテイング）を指定し、代表のジャック坂崎氏も同席した。



ドーム建設現場にて説明を聞くリヒトナー氏(右)とジャック坂崎氏

IHF専務理事、第一副会長が来熊

IHF専務理事のレイモンド・ハーン、サレム第一副会長が10月末に熊本を訪れ、熊本事務局、東京事務局長・西氏、日本協会・竹野常務理事らと懇談した。短い日本滞在であったが、ハーン氏らから大会運営上の細かいことまで聞くことが出来た。ハーン氏らは韓国での会議に来ていたもので、急遽の来日であった。

巡回教室がスタート

97年に向けてハンドボールの普及と世界選手権大会のPRを兼ねて、この度世界選手権大会熊本実行委員会内に元オリンピック選手等を特別指導員として指導チームを編成。県内の各学校、職場、公民館活動等に出向いて巡回教室を開催するもの。

指導員には北川浩氏（第2回世界選手権大会コーチ）、井薫氏（モントリオール・オリンピック監督）、佐々木信男氏（ロサンゼルス・オリンピック代表）、中川照美氏（モントリオール・オリンピック得点王）、西窪勝広氏（オムロン監督）、アレキサンダー・マルコビッチ氏（本田熊本）のほか、モントリオール・オリンピック代表の上原恵美子氏、浦田久里子氏、世界選手権出場の長野透氏、堤八千代氏、久蓮松美和子氏、緒方やよい氏、西岡郁子氏、井上秀代氏、大宮恵美子氏、松下清女氏、堤須和子氏、吉田文光子氏、春山広子氏らが登録されている。このほか、本田技研熊本、オムロンの部員、市町村行政関係者、民間スタッフ等の協力を得て行うもの。

10月28日、熊本県立大学体育館で委嘱交付式が行われ、早速県庁愛好会のメンバーを対象に指導が行われた。

このあと一般からも募集を行い、市町村、学校、企業等を対象に平成9年5月の世界選手権大会まで県内の巡回を実施する予定。

また、熊本県では初めてスポーツ国際交流員を配置。10月末よりドイツ・ヘッセン州シュッテンベルグよりホルガー・E・ミュラー氏（26才）がハンドボール授業の補助や部活動の指導のほか、世界選手権大会の開催準備や各種イベント等の協力のため来日。国際交流の促進が期待されている。ミュラー氏はドイツでも青年クラブチームのトレーナーとして活躍している。

特集

第50回国民体育大会

熱戦の跡を振り返る
地元福島勢が各種目に大健闘



ロイヤルボックスでご観戦の高円宮殿下と同妃殿下

戦後50年という節目の第50回国民体育大会が「友よ ほんとうの空に とべ！」のスローガンのもと、10月15日から19日までの5日間、1040名の男女が集い、成年一部男子・成年女子が本宮町の総合体育館と本宮体育館で、成年男子二部、少年男女が石川町の総合体育館と総合運動公園で行われた。

連日、絶好の秋晴れが続き、各種目に熱い戦いが繰り広げられた。

連日の熱戦で本宮・石川町でも多くの観衆で埋まり、ハンドボールのダイナミックなプレーを楽しんでいた。そして地元福島勢が各種目で快進撃、大いに盛り上がった。

少年女子が一戦一戦乗り切り優勝。また成年男子二部も他チームを圧倒して優勝。少年男子は2年生主体のチームであったが、メキメキ上達し3位。成年男子一部でも全日本チャンピオンの中村荷役を破り、堂々のベスト4進出を図る健闘をみせた。成年女子のムネカタもシャトレーゼ、ジャスコを破り3位に躍進。その他、少年男女で茨城勢が初の同時決勝進出し、惜しくも優勝を逃がしたものの、小中学校の強化・育成が実りつつあり特筆される。

成年男子一部は広島と愛知の戦いになったが、地力に勝る広島（湧永製薬・日新製鋼）が危な気なく勝った。成年男子一部で香川選抜が、優勝した広島を2回戦で延長まで苦しめる大健闘をみせ、昨年の国体での強化の実績を示した。

少年男子では、神奈川の全神奈川（横浜商工主体）が連日の接戦を気力と迫力のあるプレーでしのぎ優勝。少年女子ではインターハイ優勝の福井（福井商業）が大阪（大阪高校選抜）に前半からリードを奪われ、あせりもあり思わぬ敗退。愛知（選抜）、熊本（選抜）、大阪（選抜）等の強豪が相次いで敗れ、一戦一戦力をつけてきた福島（選抜）が優勝を飾った。

成年男子二部ではほとんどが学生主体のチームが多く、二部とは思えぬ迫力のあるゲームが展開された。この中で43才の大阪（オール大阪）の穂積豊彦選手が初戦からフル出場し、攻守で大活躍。観客からも大いに声援が飛んでいた。

なお、10月18日には高円宮同妃両殿下が石川町で少年女子の

決勝をご観戦になられ、福島県加藤理事長がご説明。また三笠宮寛仁妃信子様が本宮町で成年女子決勝を日本協会中沢専務のご説明でご観戦になられた。

宮様が同時にご観戦される大変珍しいケースである。高円宮同妃両殿下はハーフタイムの練習から後半最後まで試合を楽しまれた。

天皇杯、皇后杯はそれぞれ福島県が獲得した。競技全体の総合閉会式の表彰には県を代表して皇后杯を福島少年女子の鈴木選手がトロフィーを受けた。

望外な戦果―ふくしま国体

福島県ハンドボール協会強化部長　　石井　義国

ふくしま国体において本県は、史上最高の得点を挙げ、天皇、皇后杯を獲得することができました。我がハンドボール競技においても選手の大健闘により、予想を大きく上回る成果を上げることができ、競技別総合優勝を果たし、天皇杯獲得の一翼を担うことができ、喜びと同時に安堵感に浸っているところです。

思い起こせば国体強化が叫ばれて7年。この間の成果と言えば、少年女子のベスト4があったものの、2年前が成年男子一部のベスト8、1年前ですら成年男子一部と成年女子のベスト8が二つという状態で、なかなか期待するような成果が表われませんでした。

しかし、各種別とも、この状況を脱するためには、最終目標を明確にして、必死な思いで練習に取り組むことしかないとの結論に達し、恥も外聞もなく県外の各企業、大学に指導を乞いました。このような時、どの企業、大学の関係者も、「弱い福島県」のために骨身を惜しまないご指導とご支援を下さいました。この誌面をお借りして、皆様方にお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



少年男子の福島はベスト３の大活躍

皆様のご支援があってはじめて成し得た総合優勝だと考えておりますが、この好結果を生み出した要因を僭越ながらまとめさせていただきます。

①豊富な練習量の確保

弱者が強者と戦うためには、人一倍の練習が必要と考え、3年前より選手の各所属所へ練習時間の確保を要請しました。勤務時間を調整していただいたり、少年については、新幹線の利用や車での送迎により選抜チームの練習に取り組みました。最終年には、練習量だけは日本一と自負できるようになりました。

②練習姿勢に変化

特に成年男子一部・二部については、アドバイザーコーチ大西武三先生のご指導が浸透し、本番が近付くにつれ、練習の取り組みや精神面、生活面など大一番を控えた選手たちの自覚を称えたいと思います。

③ムネカタの存在

成年女子は、本県に根づいて30年になる実業団チーム「ムネカタ」が、母体となりチームを構成することができ、強化をスムーズに進めることができました。また、会社挙げての支援体制が整い、充実した取り組みができました。

④少年男子の育成

少年の育成は、7年前より中高一貫指導を打ち出し取り組みましたが、計画通りには進まず、男子は2年生中心、女子は4校からの選抜チームとなりました。よって、単独チームでは、これと言った成果もなく、本番に向け不安が募るばかりでした。しかし、それぞれ照準を国体一本

に絞った両監督の手腕と選手たちの懸命な努力により、素晴らしい成績を収めることができました。

今、国体を終え、福島県協会として心強く思っていることがあります。それは成年選手の確保に当たり、協会の方針としての「本県に骨を埋めてくれる選手を確保する」に基づき、各大学にお願いしご協力いただきました。よって、国体後もまたそれぞれの立場で、ハンドボール競技に寄与してくれる選手ばかりです。今回活躍した選手が、選手として、また指導者として、本県ハンドボール界の今後の発展に大きな力になってくれることを期待しております。

最後に、ふくしま国体をいろいろな形でご支援下さいました全国の皆様に心より感謝申し上げます。


少年女子は福島が茨城を下して優勝



成年男子一部

【決勝】

広島 26（15−8、11−15）23 愛知

立ち上がりから両チーム気迫のこもったDFで相手に得点を許さず、5分過ぎからゲームが動き出す。セットプレーからのパス回しでDFを崩しにかかるが、互いに譲らず、両チームともリズムを掴めないまま試合が進む。20分過ぎ、愛知②佐藤の退場を機に広島県選抜は4連続得点し、焦りの見える大同特殊鋼に7点差をつけ、15−8で前半が終了する。後半に入り、大同特殊鋼が粘りを見せ、⑪柴田のサイドシュートや速攻で広島県選抜に迫る。21分には⑩末岡の3点連続シュートで3点差まで追い上げるが、広島県選抜は④西山のロング、⑩源内のサイドシュートで突き離す。残り5分から再び大同の⑩末岡の気迫あふれるシュートで2点差まで詰め寄るが、限られた時間もここまで。前半の得点差は大きく、26−23で広島県選抜が優勝し、第50回ふくしま国体の幕を閉じた。


広島が2点差で愛知を破り優勝

成年男子二部

【決勝】

福島 30（17−10、13−11）21 富山

念願の初優勝を狙うふくしまクラブと学生主体の全富山の対戦で迎えた成年男子二部の決勝。開始早々福島⑪渡辺がミドルシュートを決め、試合の主導権を握る。富山は①浜元のキーパーシュートなどで食い下がるが、12分、福島⑫本田の好守にノーマークを止められ、逆速攻から連続得点され、次第に点差は離れていく。後半は一進一退の攻防を繰り返し、福島は退場者を出すなどのピンチにも耐え、残り5分⑤工藤がミドルシュートを立て続けに決め、若い富山にとどめを刺した。


総合優勝を受ける福島・石井総監督

成年女子

【決勝】

石川 27（14−10、13−12）22 熊本

試合開始前から決勝戦の緊張感が感じられ、両チームとも一進一退の攻防を繰り返す。北国

銀行はGK古沢の好守でオムロンの攻撃を阻止し、試合の主導権を掴むかに見えたが、オムロンは⑧高橋の7mスローなどから攻撃のリズムが出てきて、北国銀行に1点差まで詰め寄る。その後、北国銀行の速攻とオムロンのセットプレーで互いに得点を重ねたが、シュートの確実さに上回った北国銀行が14－10とリードして終る。

後半は、互いにセットプレーから得点を重ね、点差が変わらない展開となる。オムロンは速いパス回しの中からディフェンスを崩し、ミドルシュートやサイドシュートで2点差まで詰めていく。北国銀行もスピードのある動きで、ロングシュートで得点していく。試合は終始5点以内の点差で展開し、北国銀行が27－22でオムロンを振り切り優勝した。


成年女子は石川が熊本を下して優勝

少年男子

【決勝】

神奈川 16（5－8／11－5）13 茨城

三冠を狙う横浜商工主体の神奈川と、接戦を勝ち抜いてきた茨城の対戦である。準決勝まで落ち着いて確実なプレーをしてきた神奈川は、なぜか動きが固くミスを連発してしまう。対する茨城はリラックスしてプレーし、ゲームの主導権を握る。

3点を追う神奈川は、後半開始早々③安斉のロングシュートで反撃のきっかけを掴み、安斉、後藤のワンツーや速攻で逆転に成功し、点差を開きにかかる。残り3分、茨城はマンツーマンで守るが効果なく、後藤が最後に速攻を決め、16－13で神奈川が三冠を達成した。非常に見応えのある試合だった。


渡辺監督を胴上げする少年男子神奈川チーム

少年女子

【決勝】

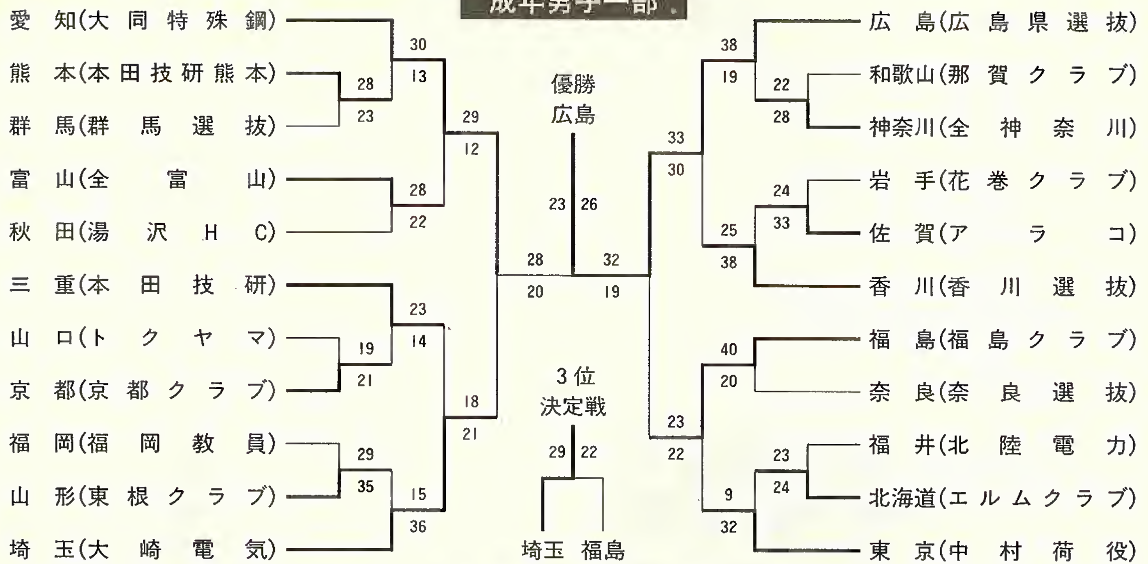
福島 16（10－3／6－8）11 茨城

前半立ち上がり、両者固さが見られ攻め切れなかったが、福島はポストプレーから7mスローを誘い先取点を挙げる。茨城も⑥武井のステップシュートから同点とするが、福島①村上のセットプレー、フリースローからのロングシュートを主体に6連続得点を挙げる。茨城は固い福島のディフェンスを崩しきれず、前半10－3で折返す。

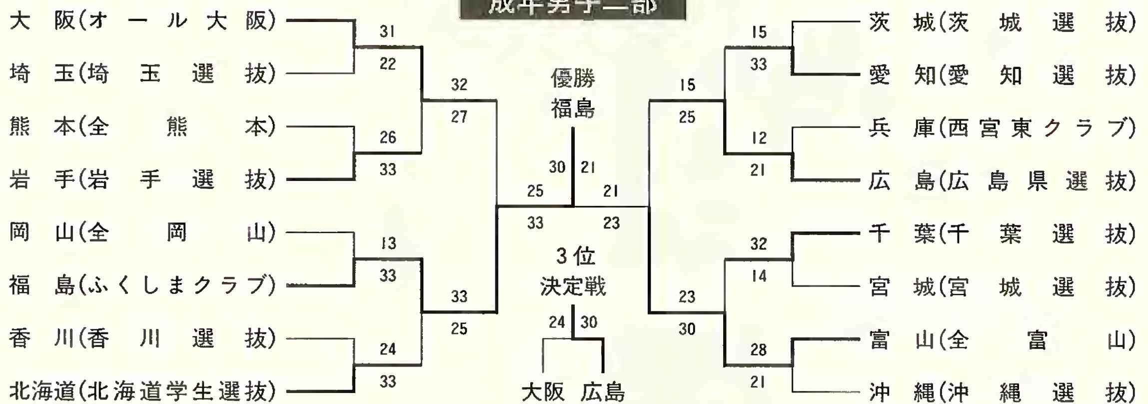
後半、茨城は積極的に攻め込み3連続得点を奪う。福島は1・2・3ディフェンスをなかなか攻め切れず、12分過ぎまで得点が出来ない。その後、一進一退の攻防を見せるが前半の貯金がものをいい、16－11で福島が試合を制した。


少年女子は福島が快進撃。強豪大阪、茨城を下して見事に栄冠を勝ち取った。優勝の感激でいっぱいの福島チーム

成年男子一部



成年男子二部



成年女子



少年男子

神奈川(全神奈川)	21	22	26		18	15	24	山口(山口県選抜)
岩手(岩手選抜)	18						18	東京(東京選抜)
長崎(長崎県高校選抜)	25	17				20	31	沖縄(興南高校)
兵庫(兵庫選抜)	17						13	秋田(秋田選抜)
福島(福島選抜)	34	23	20		25	18	22	茨城(茨城選抜)
北海道(北海道選抜)	12						18	愛知(愛知選抜)
福井(北陸高校)	27	19				17	17	香川(香川選抜)
三重(三重選抜)	22						15	大阪(大阪高校選抜)

優勝 神奈川

16 13

3位決定戦

22 14

福島 沖縄

少年女子

愛知(愛知選抜)	19	13	19		19	9	12	山口(山口選抜)
熊本(熊本選抜)	25						19	埼玉(埼玉選抜)
北海道(北海道選抜)	5	19				17	12	岐阜(岐阜選抜)
茨城(茨城選抜)	29						22	福島(福島選抜)
秋田(県立大曲農業高校)	18	17	17		15	17	14	岩手(岩手選抜)
東京(東京選抜)	9						15	福岡(福岡選抜)
愛媛(愛媛選抜)	8	14				19	16	大阪(大阪高校選抜)
京都(京都選抜)	13						13	福井(県立福井商業高校)

優勝 福島

11 16

3位決定戦

17 25

秋田 大阪

第50回国民体育大会決勝進出チームメンバー表

少年男子

神奈川県(全神奈川)			茨城県(茨城選抜)		
責任者	渡辺　靖弘		責任者	佐藤　仁	
役員			役員	滝川　一徳	
役員			役員	木村　泰志	
役員		(得点)	役員	高野　浩子	(得点)
選手①	小林　聖	0	選手①	山野井　勉	0
②	渡辺　大志	1	②	北川　貴亮	0
③	安斉　稔	9	③	中村　純也	3
④	石井　祥充	0	④	大村　佳史	6
⑤	後藤　昌紀	3	⑤	飯村　裕志	2
⑥	君塚　泰輔	1	⑥	石井　豪	0
⑦	鈴木　克彦	2	⑦	渡辺　裕一	2
⑧	藤原　勝也	0	⑧	粕谷　岳之	0
⑨	武藤　茂利	0	⑨	太田　芳文	0
⑩	保坂　一光	0	⑩	堀越　慎也	0
⑪	近藤　健人	0	⑪	小倉　学	0
⑫	宇野　貴博	0	⑫	菊地　輝行	0
	合計	16		合計	13

少年女子

茨城県(茨城選抜)			福島県(福島選抜)		
責任者	菊田　政行		責任者	佐藤　雄次	
役員	岡田　裕之		役員	遠藤　均	
役員	木村　久		役員	和田　幸枝	
役員	吉葉　真澄	(得点)	役員	斉藤　昌己	(得点)
選手①	鈴木　薫	0	選手①	村上美代志	5
②	貝塚　友子	0	②	石澤美津子	0
③	高野　明子	0	③	野崎　章子	4
④	山口美由紀	1	④	薄井　優子	0
⑤	稲吉　希穂	2	⑤	鴫原　梨代	0
⑥	武井　優子	2	⑥	佐藤美菜子	0
⑦	荒井　晴美	1	⑦	橋本久美子	1
⑧	鈴木　正子	0	⑧	大波　美和	0
⑨	横溝かほる	1	⑨	鈴木　美幸	1
⑩	黒川　直子	3	⑩	大内美喜子	1
⑪	岡田　由加	1	⑪	佐々木理恵	0
⑫	後藤　正枝	0	⑫	室井　美恵	4
	合計	11		合計	16



成年男子一部

愛知県(大同特殊鋼)			広島県(広島選抜)		
責任者	高村　誠一		責任者	西山　清	
役員	野田　清		役員	酒巻　清治	
役員	朝生　和光		役員	豊嶋　伸介	
役員	久米　廣志	(得点)	役員	日野　栄二	(得点)
選手①	秋吉　哲男	0	選手①	多田　恵久	0
②	佐藤壮一郎	3	②	堀田　幸夫	4
③	阿比留竜也	0	③	野中　宏洋	0
④	中谷　友和	0	④	西山　清	2
⑤	荻本　将勝	2	⑤	河原　隆雅	3
⑥	植木　寿憲	0	⑥	堀田　敬章	4
⑦	冨本　栄次	4	⑦	林　昌英	2
⑧	藤井　孝志	1	⑧	木村　信弥	4
⑨	清水　博之	0	⑨	中山　剛	1
⑩	末岡　政広	7	⑩	源内　利之	6
⑪	柴田　大介	6	⑪	坂口　俊幸	0
⑫	林　康一	0	⑫	宇田川竜也	0
	合計	23		合計	26

成年男子二部

福島県(ふくしまクラブ)			富山県(全富山)		
責任者	有松　正人		責任者	矢田　晃章	
役員	後藤　義信		役員	大森　聡	
役員	穂積　清康		役員		
役員		(得点)	役員		(得点)
選手①	野地　敏雄	0	選手①	浜元　少司	1
②	高橋　利和	9	②	飯山　進	4
③	板倉　義宏	2	③	塚原タケル	4
④	角田　博美	2	④	柿谷　直樹	1
⑤	工藤　敬	4	⑤	滝根　武	0
⑥	丹羽　敏之	0	⑥	山口　丈史	2
⑦	辻　昇一	2	⑦	海津憲太郎	1
⑧	小俣　宏之	3	⑧	屋敷　吉英	4
⑨	小笠原　勝	2	⑨	街道　功	4
⑩	遠藤　琢司	3	⑩	島田　将利	0
⑪	渡辺　幸生	3	⑪	水上　勝	0
⑫	本田　隆	0	⑫	室田　忠央	0
	合計	30		合計	21

成年女子

熊本県(オムロン)			石川県(北國銀行)		
責任者	西窪　勝広		責任者	荷川取義浩	
役員	橋本奈美子		役員	二口　昭夫	
役員	陶山　梨恵		役員	石倉　由香	
役員		(得点)	役員	松田　るみ	(得点)
選手①	城下　雅美	0	選手①	古澤さとこ	0
②	吉田　早苗	0	②	上出恵美子	4
③	田村　啓子	3	③	山崎　智美	4
④	太田黒仁美	0	④	谷本　泉	3
⑤	石村　智江	1	⑤	松山　倫子	4
⑥	古田　千明	4	⑥	益田　明子	0
⑦	田中　里美	4	⑦	田中美代子	6
⑧	高橋さおり	6	⑧	安岐留美子	0
⑨	西村　聖子	1	⑨	大林　まり	2
⑩	浜田かおり	1	⑩	松下由紀子	4
⑪	川崎　裕美	2	⑪	田中由美子	0
⑫	山口　文子	0	⑫	和田津由子	0
	合計	22		合計	27

第47回全日本総合選手権大会展望

95年度の全日本チャンピオンチームを決める総合選手権大会は、今年度は12月5日から17日まで世界選手権大会があり、日本女子チームが9年ぶりに出場するため分散開催となった。

男子は12月14日から17日まで東京体育館、女子は12月21日から24日までグリーンアリーナ神戸でそれぞれ16チームが参加して熱戦が繰り広げられる。

★男子の部

昨年、男子は総合で2位、日本リーグで初優勝した中村荷役は趙、呉、朴の韓国の3人を軸に成長著しいGK井上、若手の木浪が一段と迫力をつけてきて安定感はピカ一。しかし、10月下旬からスタートした日本リーグで湧永に緒戦で敗れる波乱。国体で韓国勢抜きとはいえ福島クラブに負け、そのショックからどう立ち直るか。

大同特殊鋼は昨年優勝し、自信を持っている。全日本メンバーには巧者でリードオフマンの末岡、パワフルな冨本、そつのない藤井、足の早い佐藤、GKで気迫のプレーをする林と5人を揃え、高さのある豪快なシュートを放つ林珍錫(韓国)、高村兼任監督で陣容は充実。パワーとスピードハンドボールをどう展開するかみものであり、中村荷役同様、優勝候補の一番手に挙げられよう。

これを追うのが湧永製薬、日新製鋼。先の国体で合同チームで大同を破って優勝、そして日本リーグ第一戦、湧永は中村荷役を破るなど上昇気運にある。エース中山も攻守に張り切っているし、若手の杉山、山口、高田、松谷らがフレッシュにコートを走り回り、ベテランの玉村、河原、サイドの職人堀田も健在。GK井藤前監督の復帰も心強く、ソツのない試合運びで昨年の借りを返したいところ。

日新製鋼も強者揃い。主将の堀田を中心に坂口のロング、林の巧技、木村の緩急のプレー、源内のパワー、曲者野中、GK宇田川の勝負強さが光り、西山監督のもと優勝を狙っている。

三陽商会は2mの岩本のロングが頼りだが、今一歩で勝ちを逃がしている。ダークホースは大崎電気だろう。右45度に森本が加わり、多彩な攻撃が見られる。首藤のリード、魚住もロング、ポストと今迄以上に伸び伸びしている。永山、森脇、小野、GK工藤ら若手の成長と頑張りで選手間に競争意識が目覚め、トーナメントだけに一気に駆け登る力は十分。

その他、本田技研、日本電装などは若手が多いだけに、どうゲーム運びとベンチワークでカバーしていけるかが鍵となろう。

学生陣はこのところベスト4に進んでいないだけに、日本リーグ勢の一角を崩す健闘を期待し、97年熊本に向けて生きのいいプレーをコート上で見せてほしいものである。それが日本の底上げになる。

いずれにしても上位は中村荷役、大同特殊鋼、湧永製薬、日新製鋼、大崎電気の争いになるだろうが、トーナメントだけにチームのラッキーボーイ、ムードメーカーの頑張りでどう転ぶか、そこがまた面白いところである。

★女子の部

女子は9年振りに世界選手権大会に出場し、帰国してすぐ大会に入るだけに、各チームともコンディションづくりとチームワークが鍵になろう。

その中での一番手は大崎電気。尹のカムバックにより、チームの安定感はピカ一。センタープレイヤーの広瀬、白(韓国)の突進力、左腕の新人川村、佐々木のシュート力、サイド杉原、ノーマークに強いGK今野(全日本)と隙がない。矢内監督の防御の強化も実りつつある。

大崎電気を追うのは北国銀行、オムロンだ。北国は国体で優勝し勢いがある。全日本選手でも経験豊富な谷本の巧技、上出、大林の突進力、さらに若手で期待のロングシューターの田中美代子と揃い、手応えを感じている荷川取監督。防御から速攻が早く波に乗ると手がつけられないチームである。

オムロンは試合巧者だけに主将西村(全日本)を中心にまとまっている。全日本の古田の速攻と脚力(昨年MVP)、大型ポストの石村、張(中国)の守りとポストプレー、王(中国)のシャープな動き、GK城下の頑張り、オールラウンドプレイヤーの田村啓子の台頭もあり連続Vを狙う。

ダークホース的存在は日立栃木だ。今シーズン、徹底して走りこみ、体力づくりに励み、プレーに鋭さがみられ楽しみである。大砲松本恵美に確実性が増し、主将嶋野のリードにより王(中国)、小柏の大型ポストが生き、新戦力長身172㎝の呉の攻撃力で厚みを増した。攻守の切り替えと粘りがどう出せるか伊藤監督の手腕がみものである。

シャトレーゼ、ブラザー、ジャスコ、大和銀行もスピードがあるだけに侮れない存在である。

その他、イズミの評判がいい。先のソウルカップでMVPにもなった林五卿(韓国ナショナル)がコントロールタワーでチームを引っ張り、コンビを組む姜(韓国)、若手の河本の思い切りのいいプレー、移籍の本間の加入は大きい。「一戦一戦ですよ」という松本監督も手応えを感じている。

学生陣は東京女子体育大学で全日本の児島愛らが伸び伸びプレーしてどこまで日本リーグ勢を苦しめるのか。女子の学生陣にも優秀なプレイヤーが多いだけに期待したい。

今年度のジュニア世界選手権大会で大和銀行田中美音子が小柄ながら得点王になったことで、女子チーム全体に刺激と活気が生れてきているのは明るい話題である。いずれにしてもハイレベルの動きのあるプレーが見られるだろう。

第12回女子世界選手権大会
（オーストリア・ハンガリー：12月5日～17日）

上位進出の期待かかる日本

95年女子世界選手権大会は12月5日から17日まで、オーストリア、ハンガリーの2ケ国で開催される。

2ケ国で同時併用開催は史上初めてのことである。参加国は20ケ国で、この大会はアトランタ・オリンピック予選も兼ねていて、上位4ケ国に出場資格が与えられる。残りの枠はアフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸から選出されることになっている。

日本は春にアジア選手権（兼オリンピック予選で1位韓国、2位中国、3位日本）で負けている。

櫻塚監督になり個々の個人技も大切だが、全体で動いて大型の欧州勢の防御を崩していく戦法がとられ、着実に成果が上がってきている。過去のモントリオール・オリンピックで5位の時のハチのような動きと、頭脳的なプレーが発揮されれば上位進出も十分可能なチームである。

Aグループに入って、ノルウェー、スウェーデン、オーストリアとそれぞれ伝統あるチームと対戦するだけに苦戦はまぬがれないが、日本の早い動きがどこまで通用するか注目される。

日本としては予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進み、ベスト10以上を目標としている。

優勝に近い国は、前回優勝のドイツと見る目もあるが、ハンドボールの母国デンマークの評判がいい。現在、ドイツリーグでプレーしているモース・アーニャの活躍にかかっている。また、ノルウェー、ロシアが紙一重で並んでいる。一時低迷を伝えられていた韓国だが、この夏、ソウルに欧州の強豪を招いて行ったソウルカップでは見事に立ち直った。オリンピック2連覇の実績もあり優勝する実力は十分ある。ロシアも毎回上位に進出し、今大会も最右翼は間違いないところ。

ダークホース的存在なのが先のジュニア女子世界選手権大会で優勝したルーマニアだ。また、チェコ、ハンガリー、クロアチア、スウェーデン、オーストリアの各国も戦い方によっては一気に浮上する力を備えている。

グループ分け及び日本の試合日程は別掲の通り。

女子世界選手権大会組分け

A	ノルウェー・スウェーデン・オーストリア・日本・アイボリーコースト
B	デンマーク・チェコ・ルーマニア・カナダ・スロバキア
C	ドイツ・ロシア・韓国・アンゴラ・中国
D	ハンガリー・クロアチア・米国・ウクライナ・ブラジル

日本チーム試合予定

12月5日	対ノルウェー
12月6日	対スウェーデン
12月8日	対アイボリーコースト
12月10日	対オーストリア
12月11日	クロスマッチA4×B5 B4×A5
12月12日	1/8ファイナル
12月14日	1/4ファイナル
12月15日	1/2ファイナル
12月17日	ファイナル

過去の上位入賞国

1957年 ①チェコ ②ハンガリー ③ユーゴ
1962年 ①ルーマニア ②デンマーク ③フランス
1965年 ①ハンガリー ②ユーゴ ③フランス ⑦日本
1971年 ①東ドイツ ②ユーゴ ③フランス
1973年 ①ユーゴ ②ルーマニア ③ソ連 ⑩日本
1975年 ①東ドイツ ②ソ連 ③ハンガリー ⑩日本
1978年 ①東ドイツ ②ソ連 ③ハンガリー
1982年 ①ソ連 ②ハンガリー ③ユーゴ
1986年 ①ソ連 ②チェコ ③ノルウェー ⑭日本
1990年 ①ソ連 ②ユーゴ ③東ドイツ
1993年 ①ドイツ ②デンマーク ③ノルウェー

東アジア競技大会2001年は大阪開催

第3回東アジア競技大会の開催地が10月25日、JOC（日本オリンピック委員会）理事会で大阪市で開催することを満場一致で決めた。2001年の9月か10月に12競技の実施を大阪市案にあるが、現在のところ12競技の中にハンドボール種目が入るかどうかは決まっていない。

過去の大会は第1回が1993年・上海で開催され、第2回大会は1997年韓国・釜山で開催される。

加盟国は日本・中国・韓国・中華台北・香港・朝鮮民主主義共和国（北朝鮮）・マカオ・モンゴル・カザフスタン。

大阪市は2008年度夏季オリンピック開催にも現在名乗りをあげている。

立会人（JURY）制度について

(財)日本ハンドボール協会では、日本ハンドボール界発展のため、立会人制度が必要であり、本年度全日本総合選手権大会から導入することになった。立会人制度は、監督・コーチとレフェリーの相互理解を得るために、両者の中立的立場で臨み、競技を円滑に運営・進行出来るように務めるものである。

【立会人とは】

立会人とは競技における立会人で、競技中のあらゆることを管理する。

☆レフェリーに対して

両レフェリーの観察による事実判定は最終的なものであるが、競技規則に適合しない判定に対しては正させることが出来る。

☆チームに対して

両チームに対しては、交代地域でのマナーや交代地域規定に違反があれば、注意することが出来る。しかし、違反があったとき罰するのは、あくまでレフェリーである。

また、競技中或いは終了時に、監督・コーチがレフェリーに対しアッピールした際、事態を調停・仲裁する。

但し、調停・仲裁のディスカッションの内容は、ミスジャッジなどの追及にならないようにし、判定が最も適切であったかどうか、とか考え方等について話し合われるべきである。

【全日本大会の立会人の人選】

競技技術及び競技規則に精通し、かつ立会人としてふさわしい人格・見識を有する人物を終身審判員から選出することが望ましい。

コーチ・レフェリーシンポジウム
メイン講師にルンド氏来日決定

審判委員会、指導専門委員会では、来る平成8年3月8日より10日まで、メイン講師にIHF・CCMのアラン・ルンド氏（デンマーク）を迎えコーチ・レフェリーシンポジウムを開催致します。

アラン・ルンド氏は昨年、オリンピック・ソリダリティーの講師として来日され好評を得ましたので、ご存じの方も多いと思います。今回が2度目の来日となります。ルンド氏はIHF・CCM（指導委員）の5人のメンバーの一人であり、ハンドボールの新たな発展に氏の理論は大いに貢献しており、IHFトレーナー・レフェリーシンポジウムに於いて、メイン講師を務められる一人であります。また、デンマークに於いても強化指導の責任者のポストにあり、その指導体系はIHF国際試合国別ランキングでデンマークがNo.1になっていることからもその卓越性が窺えます。

また、これに引き続き熊本に於いてアラン・ルンド氏による指導者講習会を予定しております。

(注) 1　いずれも公認指導者の方には研修義務講習会の対象となります。

2　詳しい開催要項については、機関誌、都道府県協会、都道府県指導者担当者を通じ、後日ご案内致します。

コーチ・レフェリーシンポジウム開催予定

1 日程　平成8年3月8日(金)～3月10日(日)
2 場所　東京代々木オリンピック記念青少年センター
3 内容　研究発表、コーチ分科会、レフェリー分科会、ルンド氏による講演と討議
4 参加費　未定
5 参加対象者　公認レフェリー、公認コーチ、都道府県等の中心的指導者、都道府県指導者担当者

指導者講習会開催予定

1 日程　平成8年3月15日(金)～3月17日(日)
2 場所　熊本（詳細は未定）
3 内容　ハンドボール理論、ハンドボールの実技と指導法
4 参加費　未定
5 受講対象者　公認コーチ、学校体育・社会体育・実業団などのハンドボール指導者

連載8

ミニハンドボール

ポール・アーカード／エリック・スコーガード共著　小西　博喜監修

3　テクニック［その7］

●ブロッキング

ブロッキングは防御的なハンドボールプレイに不可欠な部分である。しかし、これはしばしば、年長者たちのゲームに使われる攻撃的な、身体的接触の原因となるプレイといわれる。残念ながら、これにも一理ある。ブロッキングが正しく行われているならば、この主張は全く正しくない。しかし、正しくないブロッキングのテクニックが許されていると、この主張には確かに真実がある。ホールディングや身体的妨害などが行われることは、許されてはならないし、如何なるレベルのゲームにおいても勧められてはいけない。しかし、状況によってペナルティーが課せられるようにすべきである。ディフェンスをするプレイヤーは、胴の部分だけを使って、次の3つの主要な点に従って、ブロッキングができる。

1　正面のブロッキング
2　ディフェンスをするプレイヤーの側に沿ってのブロッキング
3　ディフェンスをするプレイヤーの斜め横に沿ってのブロッキング

練習88と練習89は、簡単なブロッキングの練習である。この段階でのブロッキングは、ブロッキングをするプレイヤーが、ブロッキングをされるプレイヤーに向かい合っているときにのみなされるべきである。ブロッキングをするプレイヤーが、ブロッキングをされているプレイヤーに背中を向けると、よくない身体的接触が起こり易いからである。

（練習87）

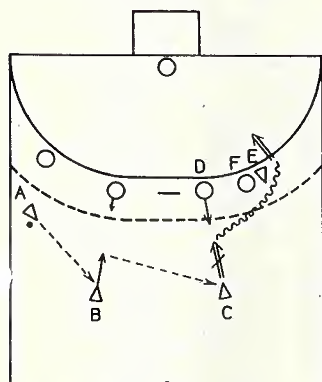
グループで行う。AがBにボールをパスし、BはCにパスをする。Cはジャンプシュートのような動作をして、FをブロックしているEの後ろをドリブルする。Cはラインのところからジャンプシュートをする。

〈進歩の順番〉

1　ゴールキーパーなしで、B、C、D、E、Fだけで行う。
2　ゴールキーパーをつけて。
3　反対側から。

〈応用〉

1　Dがシュートを阻止しようと前に出てこなかったら、Cはジャンプシュートを決める。
2　EはFがCを防御しようと動いたら、サイドのところで自由にプレーできるだろう。



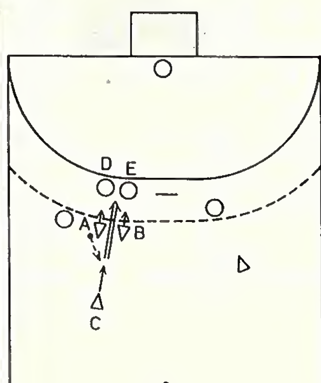
（練習88）

グループで行う。AとBは、点線のところからフリースローに対する〝壁〟を作る。AはCにパスし、直ちに、AとBはディフェンスの方に向き直る。

Cはジャンプシュートでゴールにシュートをする。

〈進歩の順番〉

1　ゴールキーパーなしで、A、B、C、D、Eだけで練習する。
2　ゴールキーパーをつける。
3　DとE（またはそのどちらか）が、Cの（シュートする動作をする）シュートを阻止しようとして、AやBのそばを離れ、AまたはBが自由になっておれば、そのプレイヤーにCはパスをする。



4　戦術上の指導

●ディフェンス上の戦術

ミニハンドボールでは、子供たちがこの段階でプレイできるディフェンスの主な形式が2つある。

1 ゾーン・マーキング

2 マン・ツー・マン・マーキング

私たちは、まず初めにゾーン・マーキングから行い、しばらくした後でマン・ツー・マン・マーキングを、距離をとって行うことを指示する。つまり〝ぴったりとしたマーキング〟ではなく〝ゆるいマーキング〟である。

私たちは〝ぴったりとしたマーキング〟をすることは、絶対に指示しない。というのも、これは子供たちのゲームに対する楽しみを奪うし、それは最初の意向に反することである。その上、あって欲しくない身体的接触が起こり易く、この理由からだけでも、避けるべきである。

ゾーン・マーキングは自由なディフェンスの壁で、すべてのディフェンス側のプレイヤーが、フリースローラインの後ろに立ったものと考えてよい。これは普通のゲームの6－0マーキングに対して、4－0マーキングとも呼ばれる。この戦術の利点は、プレイの始め方で、（自分のゴールから遠いところで）ディフェンダーがパスされる機会を少なくし、しかも、よいシュートの阻止や、よい動きのテクニックや、ディフェンスにおけるチームワークなどは、これを効果的に行う上で必要とされる。何故ならば、ロングシュートやロングジャンプシュートが、試合を決める上で、必ず必要になるからである。

距離をおいたマン・ツー・マン・マーキング（つまり〝ゆるいマーキング〟）では、自分の方のコートの中ではどこにいても、各ディフェンダーが、自分自身の相手につくことが必要である。（距離をとって！）

最もよいディフェンダーは、相手チームの最もよいアタッカーをマークするようにする。この種類のマーキングの難しい点は、ディフェンダーがよく反則（身体接触）をしやすい点である。それによって、しばしばペナルティーシュートを与えてしまうことになる。この長所はすぐに反撃体制に入ることができるし、それにともなって、たやすくゴールを決めることもできる。しかし、そのためには素早く状況に反応することや、チームワークがポイントである。また、位置をよく知っておくことや、動きの技術をよく上達させておくことが必要である。

ゾーン・マーキングに必要な基本的な動きの技術に到達するために、練習67、68、69の初歩的な練習が、後に述べた練習と同様に利用できる。マン・ツー・マン・マーキングに対しては、練習41、42、45などの初歩的な練習が、後に述べる練習と共に練習できる。

〈練習89〉

2対2のグループを作る。CとDはフリースローラインに向かって自由に動く。AとBはボールを持っているプレイヤーに近づく。（それぞれは自分の相手のプレイヤーをマークしている）もし、CとDがポジションを交替しても、AとBはポジションを交替せず、互いの相手をマークする。役割を交替することを忘れずに。

〈進歩の順番〉

1 ボールなしで。

2 ボールを使って。

3 3対3で。

4 4対4で。

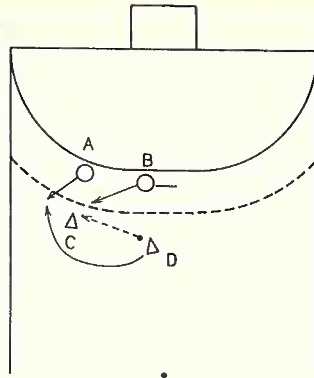
〈応用〉

CとDは、フリースローラインとゴールエリアラインの間と、その前で自由に動く。

〈進歩の順番〉

1　ボールを使って行う場合には、妨害をしてもよい。

2　ディフェンダーがボールを取った場合には、そのボールでプレイを続けてもよい（正当な方法による場合である）。真ん中から、そして、ボールをセンターラインにおいて始める。アタッカーたちは、2度ボールを取ってはいけない（得点が与えられる）。



〈練習90〉

Bがファウルをせず（身体接触をせず）、そして、正当なディフェンスの動きをしているとき、横向きに走る。素早く前に走る、素早く後ろに走るなど、Aは自由にドリブルをする。BはAをマークしようとして、常にAとゴールの間にいることができるよう、絶えず位置を替える。

●アタック上の戦術

ミニハンドボールでは、子供たちがこの段階でできる3つの基本的なことがある。それらは、次の様なものから能力に応じて教えなければならない。

1　ボールが彼らに渡される場所へ動くこと。

2　ボールがまわせる様な位置に動くこと。

3　攻撃に厚みを与えること。

子供たちは相手にボールを取られない様に、プレイできる「場所」に動くべきであるということを指示しながら、初歩的な練習45、46の練習を進めていく。

〈練習91〉

グループで行う。3対2になりゴールを用いる。アタッカーの3人のプレイヤーはサイドからのシュートで決めなければならない。ディフェンダーの2人のプレイヤーはアタッカーが得点するのを、正当な方法で阻止する。アタッカーが5回シュートをしたら、違うチームを選ぶ。

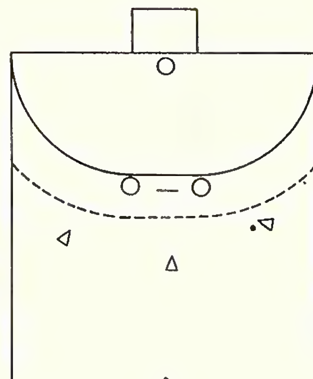
〈進歩の順番〉

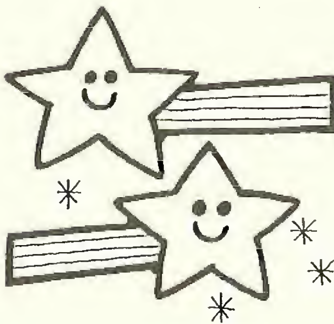
1　3対3で、どこからでもシュートをする。

2　4対4でサイドからだけシュートをする。

3　4対4で、シュートをする前に少なくとも一度両サイドにパスしなければならない。

4　4対4で、どこからでもシュートをする。





学ぶことの多いトレーニングへの姿勢

ドイツ研修レポート②

順天堂大学ハンドボール部監督　東根　明人



はじめに、こちらでの1週間を簡単に紹介します。

男子のSC Magdeburg、女子のVfB Leipzigで研修しているのですが、幸いにも隔週でホームゲームがありますので、重複することなく観戦することができます。ゲームには、殆どが土曜の夕方から夜にかけてありますので、毎週末はどちらかに出かけています。

そして、週の前半はLeipzig、後半はMagdeburgのトレーニングに参加しています。トレーニングは双方とも午後からですので、それまではドイツ語の勉強とLeipzig大学においての、資料および情報収集にあてています。DDR時代との違い、スポンサーとクラブの関係、プロについてなど、興味深い話が聞けます。これらに関しても、追ってリポートしてみたいと思います。ドイツへ来て1ケ月余りになりますが、なんとかペースがつかめ、落ち着いて研修を実施しつつあります。ドイツの良さは勿論知ることが出来ますが、抱えている問題も直接聞くことが出来ますので、非常に緊迫感があります。

さて次は、Bundesligaのプレーを中心に報告します。

最も印象的なことは「激しさ」ではないでしょうか。男女に共通していえることなのですが、試合中の相手への闘志、レフェリーへのアピール、そして味方との激励など、まさに「戦い」そのものです。

特に、レフェリーへのアピールは凄じく、監督、コーチはコートへ入って行き、観衆はブーイングを浴びせます。ただ、そんな中においてレフェリーが冷静に対処している点は感心させられます。

また、接触プレーについては、許容範囲がかなりあり、よほどでないかぎりファールになりません。ホールド・プッシュ・ショルダーチャージ等、相当なプレッシャーではないでしょうか。

このような環境で、数ケ月に渡り週1試合のペースで鍛えられていくわけです。更に、強いチームやプレイヤーになるとヨーロッパカップやナショナルチームの試合が加わり、かなりの負荷ではないかと思われます。そのため、レギュラーシーズンのトレーニングはコンディショニングを中心に行われます。Magdeburgの場合、ゲームの翌日はレスト。レスト明けのトレーニングは、1～1・5時間ミーティングをし、サッカーなどで体を暖め、30分サーキットトレーニングという内容です。ゲームにおける負荷の強さと、長いシーズンを考慮したプランニングであるといいます。時間的には短いのですが、バラエティーに富み、合理的なメニューが組み込まれています。

最後に、トレーニングに関することを少々述べたいと思います。

1・5時間のトレーニングは、W―upから始まり、技術、戦術、体力に関して、実戦を想定したトレーニングが合目的的に行われます。スタッフは選手を飽きさせないように内容を工夫し、選手には集中するよう要求します。ゲームに向けてのプランニングが、綿密に施されている様子がはっきりと伝わってきます。

また、コミュニケーションの多さは参考になります。Leipzigの場合、18～32才（ママさん選手もいます）の選手15名と監督・コーチというチーム構成です。各々が自分の考えを堂々と言い、相手の話も真剣に聞きます。和気あいあいとしたムードのなかにも、それぞれが個性を発揮しながらトレーニング。監督・コーチ・選手の役割分担が明確になされ、自己主張もするが他者受容もする。よくいわれるところの、アイデンティティの確立ということなのでは。それぞれの立場で「戦いを制するには」ということに、全力を尽くしています。

一方、現場を取り巻く環境は、東西統一後かなり変化しました。人材の発掘、指導者の育成、スポーツ医・科学の導入を基本とした強化システムは、崩れかけていました。現在、その修復は時間をかけながら、じっくりと行われています。

わが国においても、日本の特徴を生かしつつ「世界と戦うために」ということを、グローバルに考える時期に来ているのではないでしょうか。

私のチームづくり

家族、地域の支援態勢づくり

熊本県本渡市立本渡中学校　矢住　嘉孝

先日、福島県で行われた秋季国体に前任校の佐伊津中学校卒業の生徒が少年女子の熊本県選抜チームで4名出場しましたので、私もスタッフの一員に加えていただき、久し振りに高校生や一般男女の試合を見学することができました。

スピード溢れる攻防を目の当たりにして「よし、学校へ帰ったらこんなに攻防の切り替えの早いチームを作ろう」と、決意を新たにしたところでした。

私は、天草の中学校でハンドボールの指導に30年近く関わってきました。現任校の本渡中学校以外は、牛深、本町、都呂々、佐伊津とハンドボールはまったくの「0」からの出発でした。

ハンドボールという競技を知らない地域に種をまき、それが根付いて花を咲かせるためには、保護者の方々にまず、ハンドボールを知ってもらう必要があるということで、暇を見つけてもらっては練習を見にきてもらいましたし、また、地方での大会には応援に来てもらいました。



そして、夕食時の話題としてハンドボールをとりあげてもらい「今日の練習はきつかったか」「先生から今日は怒られなかったか」「シュートは入ったか」等、親子の会話をしてもらい、家族ぐるみ、地域ぐるみでの支援態勢をつくってもらってきました。

また保護者会の後には懇親会を開き、アルコールの力も借りて協力態勢を強いものにしました。

そして、公式試合や練習会等で遠征をするときには、保護者の方々に順番に車を出していただき、選手や応援の方々の輸送にあたってもらいました。

また、競技力向上面では、県内外の中学校との合同練習会や合宿練習、地元の高校との練習会等をもっていただきました。

そのおかげで、都呂々では全中で優勝、佐伊津でも全中で2年連続ベスト4、JOC大会では優勝、準優勝という結果を出すことができました。

そのJOC大会で、前田美穂（現松橋高校）が、オリンピック候補選手に選ばれました。彼女は、小学校の時はミニバスケットをやっておりましたので、最初からディフェンスのフットワークやフェイントがうまく、また、肩も強かったので1年生の時からメンバーに選ばれていました。シュートは最初は決まったコースだけをスピードを頼りに射っていましたが、すぐに、いろんなコースへ射ち分けることができるようになりました。

そこでステップシュートを教えますと中学生の女子には難しいと思われるノーステップでのシュートを打てるようになり、ディフェンスのタイミングを合わせ難くすることができました。

トレーニング面からみますと、10年ほど前までは冬場にタイヤを引かせたり、長い距離を走らせたり等のことをやっていましたが、現在では11月から新チームの試合が毎月予定されていますので、夏の中体連大会終了後、陸上競技の練習を兼ねて走り込ませるようになりました。年内の試合では他チームに技術面では劣りますので負けが続きますが、年を越えたあたりから体力面での貯金を生かしての、技術の伸びも大きくなり春には対等に戦えるようになってくるのです。そして中学生の最終目標の試合である中体連大会までには追い付き追い越すことができると考えています。

最後に、私は生徒たちがハンドボールを好きになり、高校、大学、そして社会人になってもハンドボールを楽しんでくれ、ハンドボールを通じて多くの友達を得ると共に、ハンドボールを普及させてくれ、オリンピックや世界選手権等で活躍できるよう大きく育ってくれることを願っています。

列島縦断⑥競技ファンの獲得に努力して

兵庫県ハンドボール協会理事長　**大原　康昇**



今年1月に起こりました阪神、淡路大震災には全国各地より暖かなる義援金及び励ましの言葉を戴き、この誌面をお借りしまして深く御礼申し上げます。我々ハンドボール関係者も復興に向かって頑張っております。

さて、今年度は年末に第47回全日本総合ハンドボール選手権大会（女子）の開催を間近に控え、準備に多忙を極めていますが、震災に負けず、本大会を成功さすべくスタッフ一同努力いたしています。

本県協会におきましては、「一人でも多くの競技参加と、一人でも多くの競技ファンの獲得」という基本目標をかかげ5年目を迎え、その間、チーム数は200チームを超えるに至り、また、昨年開催しました全日本対ハンガリー戦には約2500人の観客を集めることができました。ハンドボールに情熱をもつ指導者の皆様のご指導の賜とスタッフ一同感謝いたしております。

本県協会の年間行事といたしましては、春季一般選手権大会（5月）・県民大会一般の部兼国体予選（6月～7月）・県民大会高校の部（8月）・県クラブ大会兼近畿クラブ予選（10月）・大学選手権（11月）・中学新人大会（11月）・室内総合選手権大会（12月）が例年の行事ですが、中体連・高体連、更に各市協会の大会が開催され、毎年スケジュール調整には苦慮いたします。また、県協会役員のほとんどが教員ですので、自チームの指導の上に、連盟、各市協会と全てが兼務となりご苦労をかけているのが現況です。近年の教員採用状況からみて、現状の協会運営をすると近い将来に支障をきたすと考えられます。一般チームからも協会運営に携わって戴きたく願いつつ、今年より一般の大会は帯同審判制度を用いて実施しています。将来は一般の部に於いても、一般スタッフで独自の大会開催可能な人材育成に努めているところであります。

競技力の面では、高校女子の夙川学院が全国トップクラスで県内のリード役となり、ここ数年間には高校男子は育英、明石清水がベスト8、中学は今年、男子は浜の宮が近畿1位、高砂が3位、女子は衣川が2位となり3チームが全国大会の出場権を獲得し、更に県選抜チームが男女共にJOCカップの出場権を獲得しております。また、国体選抜少年の部に於いては、ここ数年、男子は中村監督（神戸国際大付属）、女子は井上監督（夙川学院）が指揮をとり軌道に乗っています。本県といたしましては一般チームの強化が最も重要な課題となります。日本リーグ入りできるようなチームの出現が目標となります。

普及面に関しましては、一般チームが高校OB中心にやや増加傾向にあります。ハンドボールを楽しんで戴く環境作りとチーム育成をと考えます。また、県内で毎年1回以上はトップクラスの大会を開催する方針で、ハンドボール関係者のみならず一般の皆様にもハンドボールをアピールすることを心がけています。最近、全日本総合選手権大会を開催するにあたり、多くの方と接する機会を得ますが、ハンドボールに対しマイナーイメージは持っておられないと感じます。私達があまりに多く言葉にしたのではと反省しています。西欧ではサッカーに次ぐメジャースポーツですと言ったほうが興味を示されます。今後はプラス思考の発想で活動すべきと考えます。

最後に全日本総合（女子）は多くのご観戦を願い、試合開始時間は次のように組んでいます。第1日14時（無料）、第2・3日15時（有料）・第4日14時（有料）。チケットはピアで全国販売（11月21日～12月19日）。県協会事務局・親和女子高校内（☎078－854－3800）丸茂宛。

＊前号32頁で案内しました「全日本総合選手権大会」女子会場はグリーンアリーナ神戸で行われますが、利用交通機関に誤りがありました。「市営地下鉄・総合運動公園駅下車3分」が正しい交通機関です。

審判委員会インフォメーション

誌上ルールテスト

あなたは何問出来ますか？

ルールのテストも3回目です。だんだん難しくなってきましたよ。正解はルールブックで調べても結構です。一度調べたものは、なかなか忘れません。

ルールブックはハンドボール協会で購入して下さい。一冊1000円です。

11 GKのB12がシュートを止め、すぐさま味方コートプレイヤーにパスをしようとしたが、ボールは手から落ち、ゴールへ転がり込んでしまった。

a Aチームの得点とし、Bチームのスローオフでゲームを再開する。

b ゴールキーパースローをやり直す。

c Aチームにスローインを与える。

d Aチームにフリースローを与える。

12 Aチームがスローインを得た。A3はサイドラインの後方2mのところからスローを行った。

a これは許されているので、問題ない。

b Bチームにフリースローを与える。

c スローインを正しい位置からやり直しをさせる。

d 笛の後で、正しい位置からスローインをやり直しさせる。

13 Aチームが7mスローを行い、ボールはゴールに入った。しかし、スロアーの手からボールが離れる前に、味方のプレイヤーがフリースローラインを踏み越してしまった。

a 得点を認める。

b 7mスローをやり直す。

c Bチームにフリースローを与える。

d 違反したプレイヤーに警告を与え、7mスローのやり直しをする。

14 どのような場合に警告としなければならないか。

a 相手に対する動作の違反。

b 相手チームがスローしようとしている時の違反。

c 攻撃側チームの反則が判定されたとき、すぐにボールを床に置かなかったとき。

d 相手チームが7mスローの準備が出来ているとき、GKの交替が繰り返されたとき。

15 A8が退場となった。退場時間はいつから始まるのか。

a レフェリーが退場のジェスチュアーをしたときから。

b 退場したプレイヤーがサイドラインから出たとき。

c レフェリーがゲーム再開の笛を吹いたときから。

d タイムキーパーが時計を動かしたときから。

（解答とその根拠となる条項は31ページに掲載）

---

6 A8は相手の数人のプレイヤーに取り囲まれたために、ボールを意識的にゴールエリア内に転がした。ボールはゴールエリア内で止まったが、GKのA1はボールに触っていない。

a A1によるゴールキーパースロー。

b 笛の合図の後に、A1によるゴールキーパースロー。

c Bチームに7mスローを与える。

d Bチームにフリースローを与える。

フリースロー

「暗い流れを断ち切れ」

企画・広報委員　早川　文司

全日本男子のアトランタへの道は険しかった。既にご承知のように、クウェートでのアジア選手権で4位に終わり、4年前のバルセロナに続いて、オリンピック出場という待ち望んだ朗報は届かなかった

多くの海外遠征をこなし〝この時に備えた蒲生監督の「手応えを感じた」との言葉に期待していたが、急激に力をつけている中東勢の前に歯ぎしりするしかなかった。

サッカーを始め、低迷していた「体操ニッポン」が鯖江大会でみごと復活するなど、最近の日本スポーツ界は活況を呈してきている。バスケットボールにしてもJリーグに刺激され、プロ化の方針を打ち出した。こうした状況の中で、今回オリンピック予選をクリアすれば、これまでとはひと味違った高い評価が得られると思っていただけに、なおさら悔しくてたまらない。

しかし、今さらいくら悔やんでも始まらない。97年には熊本で世界選手権が開かれる。とにかく、早急な再建が必要なことは、だれも異論はあるまい。

国際経験が足りなかった、選手の成長レベルが低い－いろいろな声が耳に入ってくるが、そんな雑音はどうでもいい。くだらないことを言い合っている暇はない。アジアの、世界のレベルはどんどん高くなっている現実を注視することが何より大切である。

監督・コーチ、いわゆる代表を預かるスタッフ人事を日本協会ではどのようにとらえてきたか。暗黙の了解とまでは言わないまでも、強化委員会まかせといったところはなかったか。任期を決めて結果が出なければクビー厳しい姿勢も必要だろう。

協会は総力を挙げて敗因を徹底分析し、暗い流れを断ち切ってもらいたい。それがなければ、多額の強化費をお願いした日本リーグ加盟チームにも申し訳ない。代表スタッフのビジョン確立ー今、最も望まれるところであろう。

95年ジュニア世界選手権大会★男子 RESULTS

期日　8月22日〜9月3日／場所　アルゼンチン／参加国　20ケ国

■Aグループ　ポルトガル（POR）・ルーマニア（ROM）・ドイツ（GER）・ブラジル（BRA）・スロベニア（SLO）
■Bグループ　ロシア（RUS）・スウェーデン（SWE）・フランス（FRA）・カタール（QAT）・ユーゴスラビア（YUG）
■Cグループ　エジプト（EGY）・チェコ（CZE）・スペイン（ESP）・ポーランド（POL）・ギリシャ（GRE）
■Dグループ　デンマーク（DEN）・ノルウェー（NOR）・アルゼンチン（ARG）・バーレーン（BRN）・スロバキア（SVK）

◆Aグループ

GER	27	(11−11)	22	SLO
SLO	25	(15−13)	22	BRA
POR	28	(13− 9)	22	BRA
GER	21	(11−12)	21	POR
ROM	21	(9− 5)	12	BRA
POR	30	(17− 7)	17	ROM
POR	29	(15−11)	23	SLO
GER	28	(14−10)	17	BRA
GER	23	(11−10)	21	ROM
SLO	21	(12−10)	18	ROM

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	POR	4	3	1	0	7	108：83
2	GER	4	3	1	0	7	99：81
3	SLO	4	2	0	2	4	91：96
4	ROM	4	1	0	3	2	77：86
5	BRA	4	0	0	4	0	73：102

◆Bグループ

RUS	28	(13− 9)	22	QAT
YUG	25	(14−12)	24	QAT
YUG	16	(8− 7)	15	FRA
RUS	23	(11− 7)	13	FRA
SWE	35	(15−12)	20	QAT
RUS	31	(15−11)	25	SWE
RUS	27	(13− 9)	23	YUG
FRA	33	(15− 8)	20	QAT
FRA	26	(11−10)	25	SWE
YUG	29	(17−12)	22	SWE

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	RUS	4	4	0	0	8	109：83
2	YUG	4	3	0	1	6	93：88
3	FRA	4	2	0	2	4	87：84
4	SWE	4	1	0	3	2	107：106
5	QAT	4	0	0	4	0	86：121

◆Cグループ

ESP	26	(13−12)	20	GRE
POL	20	(8− 9)	20	GRE
POL	25	(12−14)	24	EGY
ESP	29	(14− 8)	22	EGY
EGY	31	(16−13)	24	GRE
EGY	21	(12−11)	20	CZE
CZE	29	(13− 8)	16	POL
ESP	28	(12−12)	22	POL
ESP	28	(14− 7)	20	CZE
CZE	30	(14−14)	28	GRE

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	ESP	4	4	0	0	8	111：84
2	EGY	4	2	0	2	4	98：98
3	CZE	4	2	0	2	4	99：93
4	POL	4	1	1	2	3	83：101
5	GRE	4	0	1	3	1	92：107

◆Dグループ

SVK	18	(7− 7)	16	ARG
SVK	21	(11−10)	19	BRN
DEN	33	(14− 7)	12	BRN
DEN	26	(18− 8)	20	ARG
NOR	31	(17− 8)	20	BRN
NOR	23	(12−13)	22	SVK
SVK	23	(12−11)	20	DEN
NOR	27	(10− 9)	24	DEN
NOR	22	(13−10)	19	ARG
ARG	23	(14− 7)	15	BRN

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	NOR	4	4	0	0	8	103：85
2	SVK	4	3	0	1	6	84：78
3	DEN	4	2	0	2	4	103：32
4	ARG	4	1	0	3	2	78：81
5	BRN	4	0	0	4	0	66：108

◆クロスマッチ

4C：5D　POL　28（11− 9）19　BRN
4A：5B　ROM　27（13−10）29　QAT
4D：5C　ARG　23（12−13）25　GRE
4B：5A　SWE　28（14− 9）18　BRA

◆1/8ファイナル

EGY　24（11−11）22　DEN
FRA　30（12−12）25　GER
CZE　19（ 9− 8）17　SVK
POR　25（14−10）22　SWE
ESP　33（19− 9）16　GRE
YUG　25（13−11）23　SLO
NOR　25（13−12）22　POL
RUS　34（18− 8）20　QAT

◆1/4ファイナル

POR　26（13−13）22　CZE
ESP　20（11− 8）17　YUG
RUS　33（16−12）23　EGY
NOR　19（ 8−10）18　FRA

◆9−16位決勝トーナメント

DEN　32（14− 9）21　QAT
GER　27（13−12）20　POL
SWE　35（18−13）28　SVK
SLO　36（14−15 / 30：30）34　GRE

◆1−8位決勝トーナメント

EGY　25（ 9−10）21　FRA
SLO　38（17−17 / 30：30）34　SWE
YUG　23（11−12）20　CZE
DEN　32（16−10）23　GER

◆準決勝

ESP　26（12− 8）18　POR
RUS　27（12−14）23　NOR

◆3−4位決定戦

POR　24（15− 9）23　NOR

◆決勝戦

RUS　29（15−13 / 24：24）28　ESP

◆11−12位決定戦

GER　30（15− 8）23　SWE

◆9−10位決定戦

DEN　31（16−13）29　SLO

◆7−8位決定戦

FRA　41（15−14 / 29：29）36　CZE

◆5−6位決定戦

YUG　22（ 7−10）21　EGY

●順位

①ロシア②スペイン③ポルトガル④ノルウェー⑤ユーゴスラビア⑥エジプト⑦フランス⑧チェコ⑨デンマーク⑩スロベニア⑪ドイツ⑫スウェーデン⑬−⑯ギリシャ・ポーランド・カタール・スロバキア⑰−⑳アルゼンチン・ブラジル・バーレーン・ルーマニア

95年ジュニア世界選手権大会★女子 RESULTS

期日　9月5日～9月17日／場所　ブラジル・マカラジュ／参加国　20ケ国

■**Aグループ**　韓国（KOR）・ルーマニア（ROM）・オランダ（NED）・中国（CHN）・マケドニア（MKD）
■**Bグループ**　フランス（FRA）・ノルウェー（NOR）・チェコ（CZE）・クロアチア（CRO）・日本（JPN）
■**Cグループ**　ブルガリア（BUL）・ドイツ（GER）・デンマーク（DEN）・アルゼンチン（ARG）・スロバキア（SVK）
■**Dグループ**　ロシア（RUS）・ウクライナ（UKR）・ブラジル（BRA）・アンゴラ（ANG）・ウルグァイ（URU）

◆Aグループ

KOR	34	(14−13)	25	CHN
KOR	27	(13− 6)	12	NED
NED	32	(16− 7)	14	MKD
MKD	19	(8− 5)	16	CHN
ROM	32	(18−11)	21	CHN
KOR	25	(10−11)	19	ROM
KOR	32	(19− 7)	13	MKD
NED	34	(12− 4)	11	CHN
ROM	21	(13−10)	17	NED
ROM	38	(20−10)	18	MKD

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	KOR	4	4	0	0	8	118：69
2	ROM	4	3	0	1	6	110：81
3	NED	4	2	0	2	4	95：73
4	MKD	4	1	0	3	2	64：118
5	CHN	4	0	0	4	0	73：119

◆Bグループ

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	NOR	4	4	0	0	8	98：73
2	FRA	4	3	0	1	6	99：82
3	CZE	4	2	0	2	4	83：74
4	CRO	4	0	1	3	1	86：111
5	JPN	4	0	1	3	1	90：116

FRA	29	(12−10)	19	CRO
JPN	25	(12−10)	25	CRO
CZE	28	(15−11)	22	JPN
FRA	18	(5−10)	16	CZE
NOR	32	(14−11)	23	CRO
NOR	22	(14− 8)	18	FRA
FRA	34	(14−10)	25	JPN
NOR	29	(15−11)	18	JPN
NOR	15	(10− 7)	14	CZE
CZE	25	(10− 9)	19	CRO

◆Cグループ

BUL	23	(8− 6)	18	AKG
SVK	34	(15− 6)	11	ARG
DEN	29	(17− 6)	13	SVK
DEN	24	(11−11)	21	BUL
GER	30	(15− 4)	11	ARG
GER	24	(12−10)	22	BUL
BUL	19	(9− 8)	16	SVK
DEN	23	(10− 5)	13	ARG
DEN	25	(13−10)	24	GER
GER	27	(12− 7)	16	SVK

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	DEN	4	4	0	0	8	101：71
2	GER	4	3	0	1	6	105：74
3	BUL	4	2	0	2	4	85：82
4	SVK	4	1	0	3	2	79：86
5	ARG	4	0	0	4	0	53：110

◆Dグループ

ランキング		ゲーム数	勝	分	負	ポイント	総得点：総失点
1	UKR	4	4	0	0	8	119：66
2	RUS	4	3	0	1	6	110：75
3	BRA	4	2	0	2	4	86：100
4	ANG	4	1	0	3	2	79：108
5	URU	4	0	0	4	0	68：113

RUS	27	(16− 5)	16	ANG
ANG	23	(8−11)	19	URU
BRA	28	(9− 8)	20	URU
RUS	30	(15− 8)	17	BRA
UKR	36	(16−10)	18	ANG
UKR	26	(14−13)	20	RUS
RUS	33	(12− 7)	16	URU
UKR	29	(12− 6)	13	URU
UKR	28	(11−10)	15	BRA
BRA	26	(15− 9)	22	ANG

◆クロスマッチ
4A：5B　MKD　26（11−12）27　JPN
4B：5A　CRO　28（15− 6）19　CHN
4C：5D　SVK　30（13− 8）16　URU
4D：5C　ANG　24（ 9− 7）17　ARG

◆1/8ファイナル
KOR　34（15−10）20　CRO
FRA　25（12− 6）14　NED
DEN　32（17−16）21　ANG
RUS　23（12−10）21　BUL
ROM　18（11− 3）13　CZE
NOR　23（13− 8）20　JPN
GER　20（13− 6）15　BRA
UKR　25（14−11）20　SVK

◆9－16ファイナル
BUL　29（15−12）28　CRO
CZE　20（12− 5）17　SVK
NED　18（12− 7）15　ANG
JPN　34（16−13）29　BRA

◆1/4ファイナル
KOR　30（14−15）24　RUS
DEN　26（12− 9）20　FRA
ROM　27（13− 7）20　UKR
NOR　21（10− 9）20　GER

◆9－12位決勝トーナメント
BUL　26（15− 8）20　JPN
NED　22（13−10）20　CZE

◆5－8位決定戦
FRA　27（13− 7）20　RUS
UKR　25（13− 9）19　GER

◆準決勝
DEN　27（13−10）26　KOR
ROM　31（16− 8）23　NOR

◆3－4位決定戦
NOR　26（11−12）24　KOR

◆決勝戦
ROM　28（18−11）24　DEN

◆5－6位決定戦
FRA　30（17−12）23　UKR

◆7－8位決定戦
GER　26（10−11）23　RUS

◆9－10位決定戦
BUL　28（12−13）26　NED

◆11－12位決定戦
CZE　25（11−13）23　JPN

●順位
①ルーマニア②デンマーク③ノルウェー④韓国⑤フランス⑥ウクライナ⑦ドイツ⑧ロシア⑨ブルガリア⑩オランダ⑪チェコ⑫日本⑬－⑯アンゴラ・ブラジル・クロアチア・スロバキア⑰－⑳アルゼンチン・中国・マケドニア・ウルグァイ

1部女子	2部男子	2部女子	開催地
15:00～大崎電気×大和銀行			埼玉
14:00～ブラザー工業×イズミ			愛知
12:30～オムロン×シャトレーゼ	14:00～トクヤマ×トヨタ車体	11:00～ソニー国分×ジャスコ	山口
14:00～北国銀行×日立栃木		15:40～ムネカタ×立山アルミ	福島
	16:40～三景×トヨタ自動車		東京
15:30～シャトレーゼ×ブラザー工業		14:00～立山アルミ×ジャスコ	秋田
		19:00～ムネカタ×ソニー国分	福島
17:30～北国銀行×大和銀行 19:00～日立栃木×大崎電気			愛媛
18:30～イズミ×オムロン			広島
	18:45～豊田自動織機×本田技研熊本		愛知
15:00～大崎電気×シャトレーゼ			岩手
			愛知
15:00～大和銀行×オムロン			大阪
19:30～ブラザー工業×日立栃木		18:00～ジャスコ×ムネカタ	愛知
15:30～北国銀行×イズミ	12:30～北陸電力×大阪ガス	14:10～立山アルミ×ソニー国分	富山
18:30～イズミ×大崎電気	17:00～トクヤマ×本田技研熊本		広島
	19:00～北陸電力×三景		福井
			神奈川
			埼玉
	13:30～トヨタ車体×豊田自動織機 15:00～トヨタ自動車×大阪ガス		愛知
15:00～大和銀行×ブラザー工業			大阪
15:00～日立栃木×オムロン			栃木
	13:00～三景×本田技研熊本		神奈川
15:00～シャトレーゼ×北国銀行			山梨
		12:30～ジャスコ×ソニー国分	三重
18:30～大崎電気×北国銀行		17:00～立山アルミ×ムネカタ	埼玉
17:30～ブラザー工業×オムロン			愛知
19:00～大和銀行×日立栃木			大阪
		16:50～ジャスコ×立山アルミ	三重
18:30～イズミ×シャトレーゼ			広島
			愛知
	18:45～豊田自動織機×トヨタ自動車		愛知
	14:00～大阪ガス×トヨタ車体		大阪
15:00～日立栃木×イズミ			栃木
10:30～シャトレーゼ×大和銀行			山梨
14:00～北国銀行×ブラザー工業			石川
			岡山
14:10～オムロン×大崎電気		12:20～ソニー国分×ムネカタ	大分
	11:00～トクヤマ×北陸電力		山口
18:30～日立栃木×シャトレーゼ			山形
	14:00～北陸電力×豊田自動織機		福井
		18:00～ソニー国分×立山アルミ	鹿児島
12:00～ブラザー工業×大崎電気			愛知
12:20～イズミ×大和銀行			山口
14:20～オムロン×北国銀行	13:00～本田技研熊本×大阪ガス		熊本
		13:00～ムネカタ×ジャスコ	福島
	10:00～トヨタ自動車×トクヤマ 11:30～トヨタ車体×三景		愛知
13:00～大和銀行×シャトレーゼ			兵庫
18:30～大崎電気×イズミ			埼玉
15:00～ブラザー工業×大和銀行			愛知
13:30～オムロン×日立栃木		12:00～ソニー国分×ジャスコ	宮崎
14:30～北国銀行×シャトレーゼ		13:00～立山アルミ×ムネカタ	富山
18:00～日立栃木×大和銀行 19:20～オムロン×ブラザー工業			熊本
17:00～シャトレーゼ×イズミ			山梨
17:40～北国銀行×大崎電気	19:00～北陸電力×本田技研熊本	16:20～立山アルミ×ソニー国分	福井
		13:50～ジャスコ×立山アルミ	三重
14:00～イズミ×日立栃木			広島
	13:30～豊田自動織機×大阪ガス 15:00～トヨタ自動車×トヨタ車体		愛知
	13:00～三景×トクヤマ		千葉
14：00～大崎電気×オムロン			埼玉
13：00～ブラザー工業×北国銀行			愛知
		13:00～ムネカタ×ソニー国分	福島
	16:40～三景×豊田自動織機		東京
17:00～シャトレーゼ×オムロン			山梨
	14:00～大阪ガス×トクヤマ		大阪
15:00～大和銀行×大崎電気			大阪
15:00～日立栃木×北国銀行		13:30～ジャスコ×ムネカタ	栃木
	12:00～トヨタ車体×北陸電力		愛知
13:00～イズミ×ブラザー工業			広島
	13:30～本田技研熊本×トヨタ自動車		熊本
		14:00～ソニー国分×立山アルミ	鹿児島
19:00～大崎電気×日立栃木			埼玉
17:30～ブラザー工業×シャトレーゼ			愛知
19:00～大和銀行×北国銀行			大阪
		19:00～ムネカタ×立山アルミ	福島
		16:50～ジャスコ×ソニー国分	三重
18:30～オムロン×イズミ			京都
14:30～オムロン×大和銀行	15:50～大阪ガス×三景		京都
	13:30～トヨタ自動車×北陸電力		愛知
15:00～日立栃木×ブラザー工業		13:30～立山アルミ×ジャスコ	栃木
14:00～シャトレーゼ×大崎電気			群馬
			愛知
12:30～イズミ×北国銀行			広島
	11:00～トクヤマ×豊田自動織機		山口
	13:30～本田技研熊本×トヨタ車体		熊本
		14:00～ソニー国分×ムネカタ	鹿児島
15:00～大和銀行×イズミ			大阪
11:00～北国銀行×オムロン			石川
14:00～大崎電気×ブラザー工業			埼玉
14:00～シャトレーゼ×日立栃木			神奈川
		13:00～ムネカタ×ジャスコ	福島

【訂正とお詫び】 本誌前号29ページの「第20回日本リーグ前期日程表訂正」の中で、「訂正前」と「訂正後」を逆に掲載し、誤った記載をしてしまいました。「11月～12月日程表」が正しい開催地・開催時間です。訂正表に記載された会場の関係者の皆様、観戦を予定されていたファンの皆様には多大なご迷惑をおかけ致しました。深くお詫び申し上げます。

第20回日本リーグ後期日程表

週	月・日(曜)	開催地	会場	1部男子
1	1月6日(土)	埼玉	朝霞市総合体育館	
	1月7日(日)	愛知	半田市体育館	
		山口	岩国市総合体育館	
		福島	本宮町総合体育館	
2	1月10日(水)	東京	東京体育館	18:10～中村荷役×本田技研 19:30～三陽商会×湧永製薬
		秋田	湯沢市総合体育館	
		福島	本宮町総合体育館	
		愛媛	松山市総合コミュニティセンター体育館	
	1月11日(木)	広島	東区スポーツセンター	
	1月12日(金)	愛知	豊田自動織機体育文化センター	
	1月13日(土)	岩手	岩手県営体育館	16:50～大崎電気×大同特殊鋼
		愛知	岡崎市体育館	14:00～日本電装×日新製鋼
		大阪	舞州アリーナ	
	1月14日(日)	愛知	中村スポーツセンター	
	1月15日(祝)	富山	高岡市民体育館	
3	1月18日(木)	広島	東区スポーツセンター	
	1月19日(金)	福井	北陸電力福井体育館	
	1月20日(土)	神奈川	横浜文化体育館	15:00～三陽商会×日本電装 16:30～中村荷役×日新製鋼
		埼玉	朝霞市総合体育館	15:00～大崎電気×湧永製薬
		愛知	三好公園総合体育館	
		大阪	舞州アリーナ	
	1月21日(日)	栃木	栃木市総合体育館	
		神奈川	横浜文化体育館	14:30～三陽商会×中村荷役
		山梨	緑が丘スポーツ公園体育館	
		愛知	東海市民体育館	14:00～大同特殊鋼×本田技研
4	1月23日(火)	埼玉	新座市民総合体育館	
		愛知	ブラザー体育館	
	1月24日(水)	大阪	舞州アリーナ	
	1月25日(木)	三重	鈴鹿市体育館	18:30～本田技研×大崎電気
		広島	東区スポーツセンター	
	1月26日(金)	愛知	岡崎市体育館	18:30～日本電装×大同特殊鋼
			豊田自動織機体育文化センター	
	1月27日(土)	大阪	大阪ガス岩崎RC体育館	
	1月28日(日)	栃木	栃木市総合体育館	
		山梨	鎮山総合体育館	
		石川	小松市総合体育館	
		岡山	岡山県体育館	13:00～日新製鋼×三陽商会 14:30～湧永製薬×中村荷役
		大分	大分県立総合体育館	
		山口	徳山市総合スポーツセンター	
5	2月3日(土)	山形	東根市民体育館	
		福井	北陸電力福井体育館	
		鹿児島	国分市総合体育館	
	2月4日(日)	愛知	岡崎市体育館	13:20～日本電装×本田技研
		山口	下関市体育館	13:50～日新製鋼×大崎電気 15:20～湧永製薬×大同特殊鋼
		熊本	鹿本町民体育館	
		福島	本宮町総合体育館	
		愛知	知立市福祉体育館	
6	2月12日(月)	兵庫	尼崎市記念公園総合体育館	
	2月14日(水)	埼玉	新座市民総合体育館	
	2月17日(土)	愛知	天白スポーツセンター	
	2月18日(日)	宮崎	宮崎県体育館	
		富山	三協アルミ体育館	
7	2月20日(火)	熊本	熊本市総合体育館	
	2月21日(水)	山梨	山梨市民総合体育館	
	2月22日(木)	福井	福井県営体育館	
	2月24日(土)	三重	四日市市中央緑地体育館	15:30～本田技研×湧永製薬
		広島	東広島市運動公園体育館	
		愛知	豊田自動織機体育文化センター	
	2月25日(日)	千葉	千葉ポートアリーナ	14:30～中村荷役×日本電装
		埼玉	川越運動公園総合体育館	15:30～大崎電気×三陽商会
		愛知	枇杷島スポーツセンター	14:30～大同特殊鋼×日新製鋼
		福島	本宮町総合体育館	
8	2月28日(水)	東京	東京体育館	18:10～中村荷役×大崎電気 19:30～三陽商会×大同特殊鋼
		山梨	塩山市民体育館	
	3月2日(土)	大阪	大阪ガス岩崎RC体育館	
		大阪	舞州アリーナ	
	3月3日(日)	栃木	栃木市総合体育館	
		愛知	岡崎市体育館	13:20～日本電装×湧永製薬
		広島	呉市体育館	14:30～日新製鋼×本田技研
		熊本	合志町総合センター「ヴィーブル」	
		鹿児島	鹿児島アリーナ	
9	3月6日(水)	埼玉	志木市民体育館	17:40～大崎電気×日本電装
		愛知	ブラザー体育館	
		大阪	舞州アリーナ	
		福島	本宮町総合体育館	
	3月7日(木)	三重	鈴鹿市体育館	18:30～本田技研×三陽商会
		京都	田辺中央体育館	
	3月9日(土)	京都	京都市体育館	
		愛知	トヨタスポーツセンター	
	3月10日(日)	栃木	栃木市総合体育館	
		群馬	富岡市民体育館	
		愛知	中村スポーツセンター	13:30～大同特殊鋼×中村荷役
		広島	東区スポーツセンター	14:00～湧永製薬×日新製鋼
		山口	徳山市総合スポーツセンター	
		熊本	熊本市総合体育館	
		鹿児島	鹿児島アリーナ	
10	3月16日(土)	大阪	舞州アリーナ	
	3月17日(日)	石川	金沢市総合体育館	
		埼玉	朝霞市総合体育館	
		神奈川	川崎市等々力アリーナ	
		福島	本宮町総合体育館	

誌上ルールテスト【解答とその根拠となる条項】

11－a(9－1、10－2、6－5、12－3)　12－d(11－3、11－4、16－5)
13－c(14－6、13－1a)　14－b(11－1c)　15－c(11－4)

95年度事業予定

(財)日本ハンドボール協会

月	全国大会（会場）	その他
95/4		2～4 第3回アジア女子ジュニア選手権大会 韓国・ソウル 6～8 第5回女子アジア選手権大会 韓国・ソウル
5	12～14 第36回全日本実業団選手権大会（男子） 大阪市立中央体育館 12～14 第36回全日本実業団選手権大会（女子） 愛知県体育館	7～21 第14回男子世界選手権大会 アイスランド
6		1～20 女子ナショナル・ヨーロッパ遠征 5～10 男子ナショナル強化合宿 名古屋 22～ 女子ナショナル強化合宿 名古屋
7	28～30 第15回全国クラブ選手権大会 高松市総合体育館・香川県立体育館 29～31 第8回全国小学生ハンドボール大会 京都府田辺町田辺中央体育館	14～16 第1回広島国際大会 広島 21～23 サマーカップ 熊本 29～ 男子ナショナル・ヨーロッパ遠征（～8／16）
8	2～7 第46回全日本高校選手権大会 5～6 第22回全国高等専門学校選手権大会 8～10 第3回全国教職員マスターズ大会 9～13 第38回全日本教職員選手権大会 15～19 西日本学生選手権大会 17～21 東日本学生選手権大会 19～22 第24回全日本中学校大会 （会場）倉敷市水島緑地福田公園体育館 県立青陵高等学校 大阪府体育館 豊田市 広島市佐伯区スポーツセンター体育 湧永満之記念体育館他 名古屋市天白区スポーツセンター他 函館市民体育館他 埼玉県草加市健康都市記念体育館	23～27 男子ナショナルB海外遠征 ドイツ 28～ 男子ナショナル・コンチネンタルカップ（～9／3） フランス 29～ 男子ナショナル・強化合宿（～9／8） 本田技研鈴鹿 28～ 女子ジュニア・強化合宿（～9／1）
9		9／2 〈会議〉常務理事会 5～13 女子ナショナル強化合宿 オムロン 5～17 第10回女子ジュニア世界選手権大会 ブラジル 15～24 男子ナショナル海外遠征 バーレーン 25～10／5 第8回男子アジア選手権大会 兼アトランタ五輪予選 クウェート
10	15～19 第50回国民体育大会 福島県本宮町総合体育館他 石川町総合体育館他 24～ 第20回日本リーグ（前期～12／10） 各地	
11	14～19 第38回全日本学生選手権大会 宮城県仙台市体育館	11／11 〈会議〉常務理事会 全国理事会 11／20～12／3 全日本女子 韓国・ハンガリー遠征
12	14～17 第47回全日本総合選手権大会（男子） 東京体育館 21～24 第47回全日本総合選手権大会（女子） 神戸市総合運動公園グリーンアリーナ 26～28 第4回JOCジュニアオリンピックカップ 大阪府堺市立大浜体育館他	11／26～12／3 女子ナショナル・ハンガリー四ヶ国大会 5～12 第12回女子世界選手権大会 ハンガリー・オーストリア 2 〈会議〉常務理事会
96/1	6～ 第20回日本リーグ（後期～3／17） 各地	
2	10～12 第27回全日本実業団トーナメント（男子） 福井県・北陸電力体育館 10～12 第4回全日本実業団トーナメント（女子） 福井県・北陸電力体育館	
3	25～28 第19回全国高等学校選抜大会 愛知県体育館 28～31 第20回日本リーグプレイオフ 東京	

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三五九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成七年十一月二十六日 印刷
平成七年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円